（資料１－３）

地域重点プロジェクト　個別説明資料

代表的事例

【治水事業】

○地域防災力向上の取組推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-1
○名寄川地区かわまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-2
○魚類等の生息環境保全に関する取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-3
○魚類等の移動の連続性確保及び生息環境の保全・創出に
　向けた調査・検討の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-4
○治水安全度向上のための河川改修（天塩川上流）・・・・・・・・・・・・・1-3-5
○旭川駅周辺かわまちづくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-6
○治水安全度向上のための河川改修（石狩川上流）・・・・・・・・・・・・・1-3-7
○石狩川上流　砂防事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-8
○南富良野町かわまちづくり・幾寅地区MIZBEステーション
　（札幌開発建設部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-9
○雨竜ダム再生事業（札幌開発建設部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-10

【道路事業】

○北海道縦貫自動車道 士別剣淵～名寄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-11
○一般国道40号　音威子府バイパス（音中道路）・・・・・・・・・・・・・・1-3-14
○一般国道452号　五稜道路・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-17
○旭川十勝道路（富良野道路・富良野北道路）・・・・・・・・・・・・・・・1-3-19

【農業農村整備事業】

○直轄明渠排水事業　風連多寄地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-23
○国営かんがい排水事業　共栄近文二期地区・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-24
○国営緊急農地再編整備事業　愛別地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-25
○国営緊急農地再編整備事業
　大雪東川第一地区・大雪東川第二地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-26
○国営緊急農地再編整備事業　旭東東神楽地区・・・・・・・・・・・・・・・1-3-27
○国営緊急農地再編整備事業　旭東地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-28
○国営施設応急対策事業　鳥沼宇文地区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-29

【官民共創の取組】

○広域連携共創の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1-3-30

国土交通省
北海道開発局　旭川開発建設部

共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

地域防災力向上の取組推進

治水事業 1-3-1

地域重点プロジェクト

○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　　石狩川上流域、天塩川上流域
主要項目　　防災学習教室・施設見学会の開催 等
令和６年度迄の主要な成果：総合防災訓練、各種研修会　等

地域防災力向上の取組推進

・迅速かつ円滑な災害対応に向けた防災関係機関の連携強化
・ハザードマップ作成・普及支援や講習会実施等地方公共団体の防災力向上推進
・防災教材の作成・普及や防災訓練実施等地域との協働による防災対策の取組
・十勝岳の観測監視体制の充実
・防災関係機関が連携した災害対策を支援するための防災情報共有化推進

◆ **十勝岳の噴火における火山泥流災害を想定した十勝岳噴火総合防災訓練を国、北海道、上富良野町、美瑛町で実施（令和7年2月20日）**

避難訓練状況

現地対策班証

災害対策本部

現地合同本部

令和７年度は上記の取り組みを継続して実施し、「住民の防災意識の向上」「子供たちへの啓発」「組織間の連携強化」等による地域防災力向上を目的として、水防研修会、水防学習会を開催し、関係機関、住民への防災情報の提供や防災体制や連絡体制の強化など、地域とのよりいっそうの連携・協働を進めていく

石狩川上流における各種研修会等の開催

【①**石狩川上流防災啓発**（令和6年6月29日）】
■地域防災力向上を目的とした出前講座

①出前講座

【②**石狩川上流防災啓発**（令和6年6月11日）】
■小学生を対象とした防災講座

②防災講座

【③**危機管理訓練**（令和6年7月3日）】
■自治体、消防等を対象に危機管理訓練
（排水ポンプ操作訓練等）

③危機管理訓練

天塩川上流における各種研修会等の開催

【①**天塩川上流防災啓発**（令和6年8月27日）】
■小学生を対象とした防災講座
【②**天塩川上流水防学習会**（令和6年7月9～10日）】
■防災に関わる知識や対応力の向上を図る学習会

①防災講座

②水防学習会

名寄川地区かわまちづくり

治水事業 1-3-2

地域重点プロジェクト

○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト

事業箇所　名寄市、下川町
主要項目　管理用道路L=4,000m、横断施設N=３箇所
令和６年度迄の主要な成果：管理用道路、横断施設の整備　等

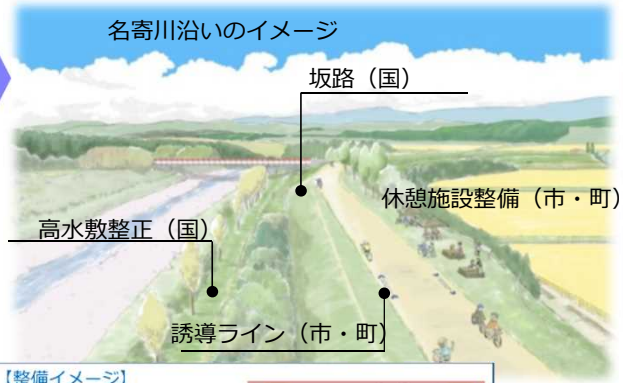
平成29年3月7日にかわまちづくり支援制度に登録された「名寄川地区かわまちづくり計画」を踏まえ、河川空間をサイクリングロードとして活用するため、名寄市、下川町との連携による整備を実施

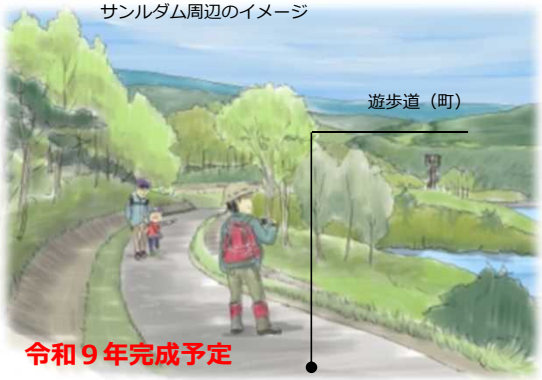
サイクリングロード図

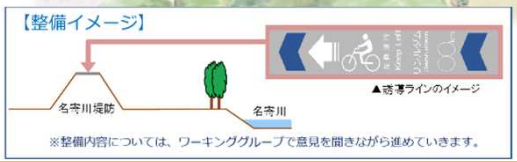
◆今後の整備内容
・管理用通路整備
・誘導ラインの設置

整備内容

令和9年度完了予定







誘導ライン

WG開催状況

必要な整備内容、地域との連携・ＰＲ方法に関する検討など、地域の観光関係者、サイクリスト、観光や宿泊施設の経営者など7名のメンバーで議論

リーフレットデザイン（案）

周遊性向上に向けた議論

より効果的な整備を行うため、名寄市、下川町職員や観光まちづくり協会、地元サイクリングクラブ等と連携し、サイクリングコースの試走を行ってい

現地の試走

魚類等の生息環境保全に関する取組

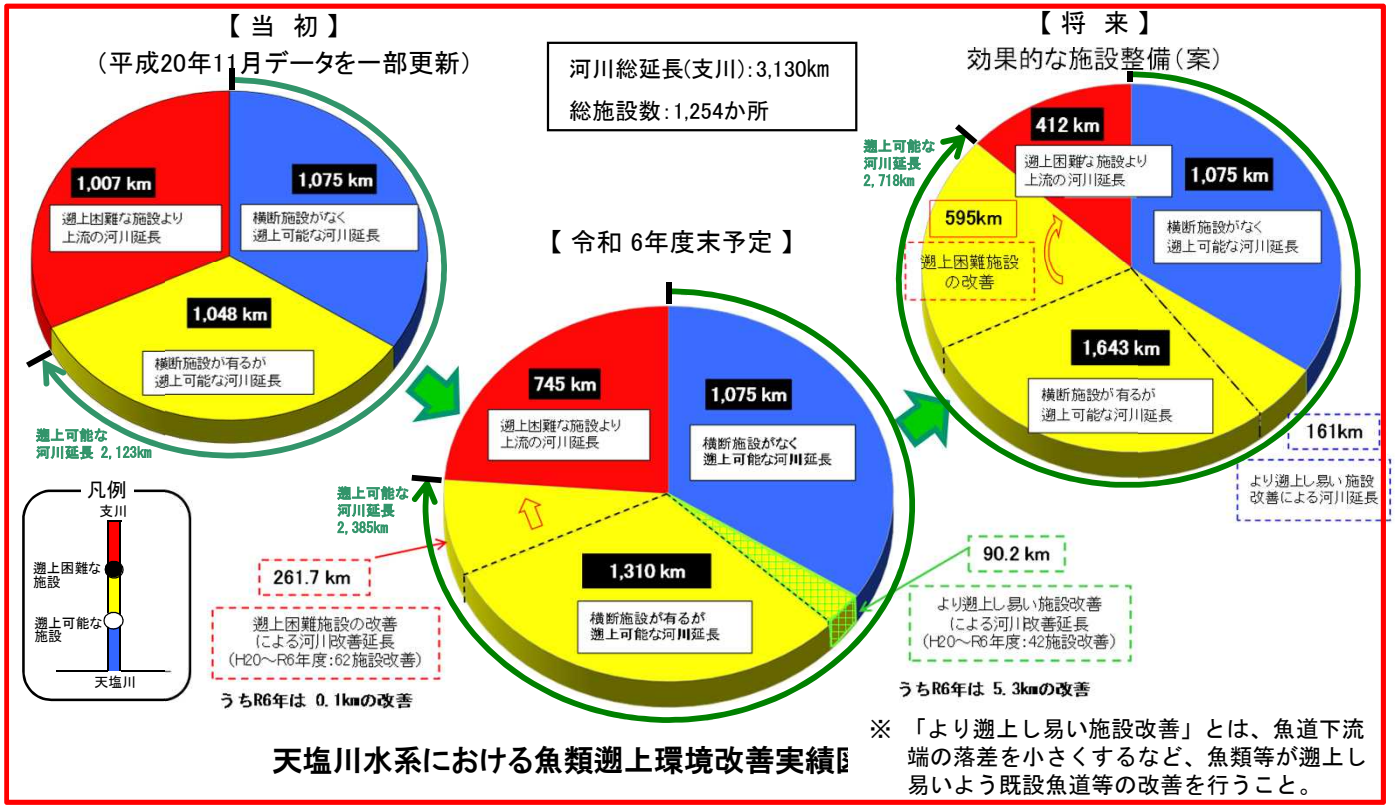
治水事業 1-3-3

地域重点プロジェクト

○ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト

天塩川流域の魚類の連続性確保のため、流域の国・道の関係機関、学識者等と連携のうえ、遡上困難施設への魚道整備・改善等を進めています。

事業箇所　天塩川流域
主要項目　魚類の連続性確保に向けた現地調査・検討
令和６年度迄の主要な成果：遡上困難施設（６２施設）を改善し遡上可能となった河川延長２６１.7km



天塩川水系における魚類遡上環境改善実績図

※「より遡上し易い施設改善」とは、魚道下流端の落差を小さくするなど、魚類等が遡上し易いよう既設魚道等の改善を行うこと。

◆関係機関

令和６年度時点 ～１２組織	◆北海道開発局　旭川開発建設部（河川・農水） 留萌開発建設部（河川・農水） ◆北海道森林管理局　上川北部森林管理署 留萌北部森林管理署 宗谷森林管理署 ◆北海道 上川総合振興局　北部森林室、産業振興部、旭川建設管理部 留萌振興局　産業振興部　留萌建設管理部 宗谷総合振興局　産業振興部　稚内建設管理部

魚類等の移動の連続性確保に向けた関係機関連携会議開催状況（令和7年2月5日）

魚道施設整備の状況

·アラキの川 No3床固工魚道新設（H29.9）　上川総合振興局北部森林室

天塩川流域～森と海に優しい川づくりワークショップ（美深町）
（技術力向上を目的とする講義、意見交換）R6.10.8

専門家会議による魚道ワーキング
（専門家による現地技術協議）

魚類等の移動の連続性確保及び生息環境の保全・創出に向けた調査・検討の推進

治水事業 1-3-4

地域重点プロジェクト

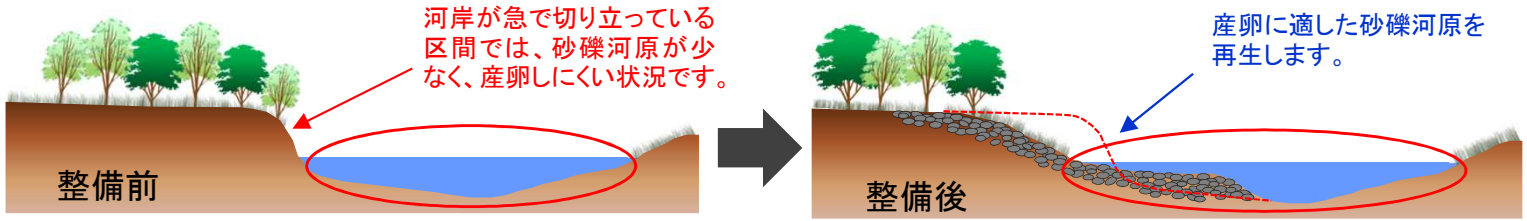
○ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト

事業箇所　天塩川中上流域
主要項目　魚道整備N=4箇所 河道整正A=33千m2
令和６年度実施状況　魚道整備　河道整正　等

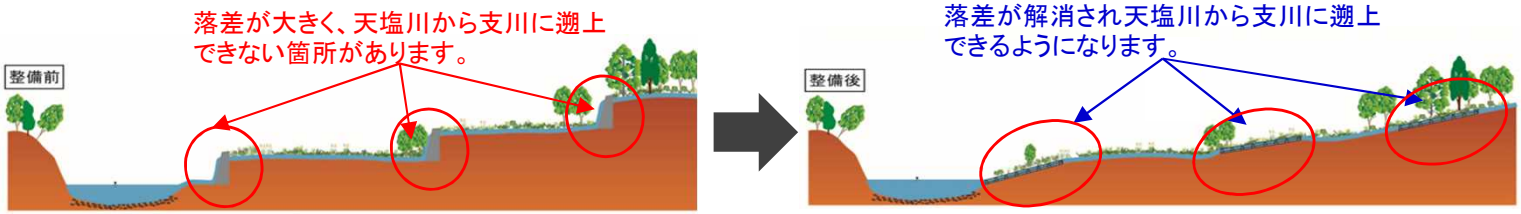
天塩川水系ではこれまでの河道掘削や堤防整備などの治水事業により流域の治水安全度の向上や農業の発展などに寄与してきました。
一方で、治水・利水事業等を経て河道が変遷していく過程において、魚類の産卵床になり得る砂礫河原が減少。また、支川及び支川合流部の横断工作物によって魚類の移動が阻害されている箇所もあるため、遡上先の砂礫河原の創出、支川合流部等の落差解消による河川縦断方向の連続性の回復等により、天塩川水系において魚類が持続的に再生可能な河川環境の回復を図ります。

天塩川中上流地区自然再生事業 整備内容

①　河道掘削による魚類生息環境改善のための砂礫河原の創出



②　支川合流部等の魚道整備による落差解消



【整備イメージ】
久尾内川
落差魚道新設（R2）
開発局
名寄河川事務所

治水安全度向上のための河川改修（天塩川上流）

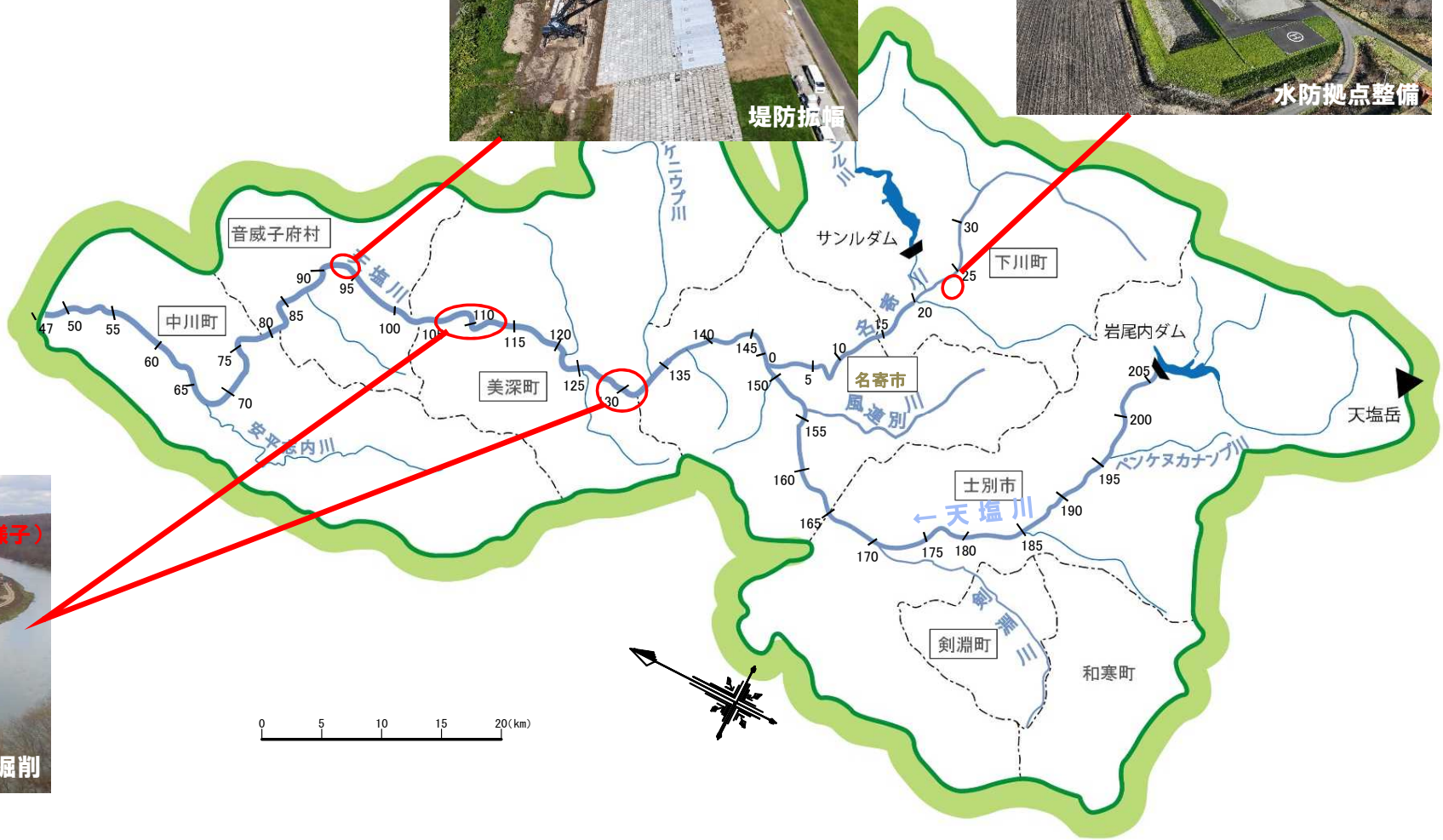
治水事業 1-3-5

地域重点プロジェクト

○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　天塩川上流域
主要項目　河道掘削・樹木伐採、堤防整備　等
令和６年度迄の主要な成果：河道掘削、樹門改築　等

長大河川天塩川の氾濫域の中で治水安全度が低く市街地を有する地区について優先的に河道掘削、堤防強化等を実施。気候変動の影響により激甚化・頻発化する災害に備え、「防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策」を計画的に実施します。



旭川駅周辺かわまちづくり

治水事業 1-3-6

地域重点プロジェクト

◯道北広域観光地域づくりプロジェクト
◯ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト

事業箇所　旭川市
主要項目　親水広場　３箇所、側帯工　１箇所、
　　取付道路工　１箇所
令和６年度迄の主要な成果：施設設計　等

旭川市では「第8次旭川市総合計画」に基づく、食と農等の様々な地域の資源や特性を活かし、地場産業の振興やブランド力の向上等、地域経済の活性化を図っており、市民がスポーツに取り組み、競技力の向上や健康増進・心身のリフレッシュを図ることができるようスポーツに親しめる環境づくりを進めています。
旭川市と旭川開発建設部が連携し、地域観光のゲートウェイであるJR旭川駅南側地区と忠別川・牛朱別川が一体となった水辺整備を行い、観光・まちづくりによる賑わいの創出により、旭川市街地の地域活性化を図ります。

整備イメージ図

■忠別川における整備箇所

■牛朱別川における整備箇所

治水安全度向上のための河川改修（石狩川上流）

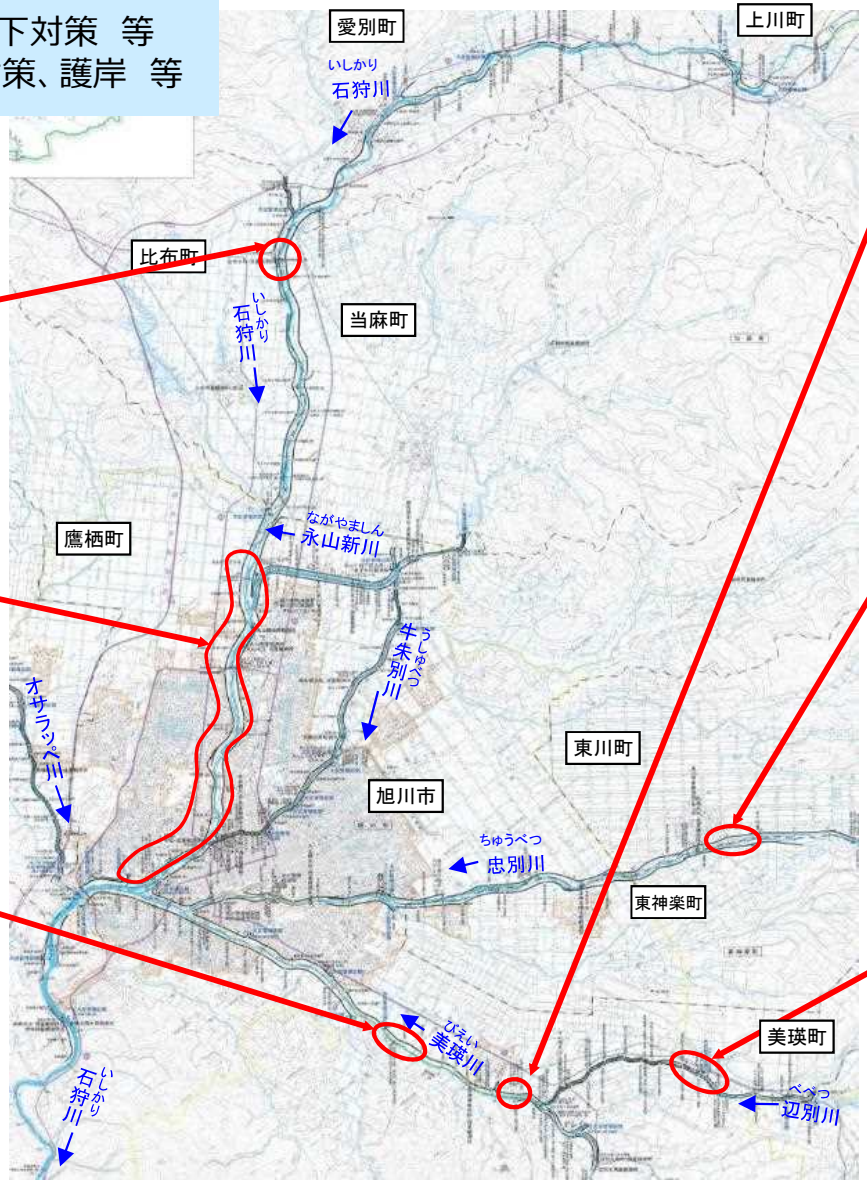
治水事業 1-3-7

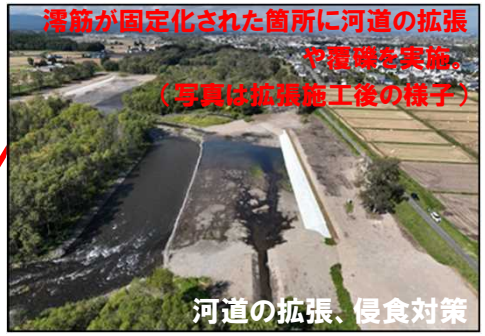
地域重点プロジェクト

○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりプロジェクト

事業箇所　石狩川上流域
主要項目　河道掘削・樹木伐採、堤防整備、河床低下対策　等
令和６年度迄の主要な成果：河道掘削、河床低下対策、護岸　等

人口・資産が集中し近年被害が発生している旭川市街部周辺において、氾濫被害の軽減効果・整備優先度等を踏まえ、河道掘削、堤防整備、河床低下対策、河岸侵食対策等を実施。気候変動の影響により激甚化・頻発化する災害に備え、「防災・減災、国土強靭化のための５か年加速化対策」を計画的に実施します。





石狩川上流　砂防事業

治水事業 1-3-8

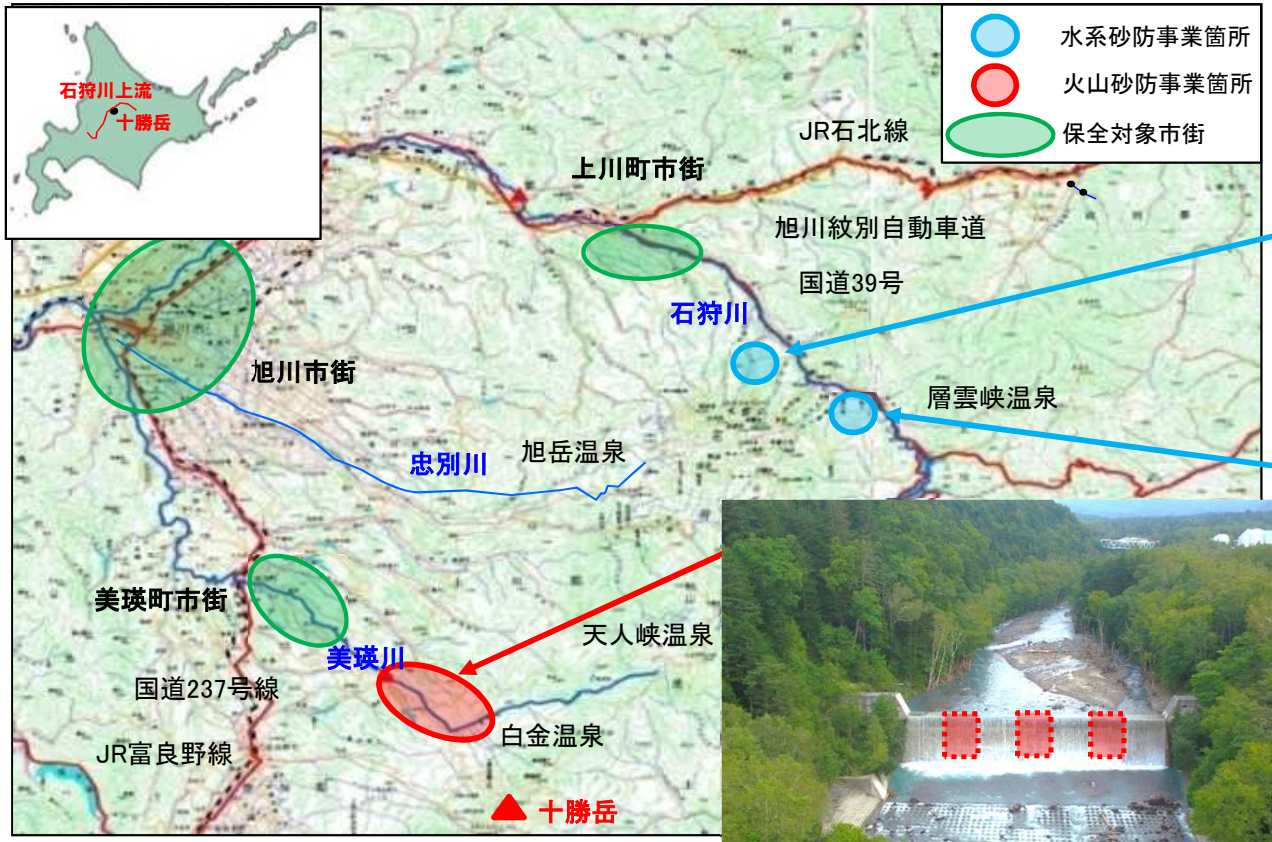
地域重点プロジェクト

○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　上川町、美瑛町
主要項目　層雲峡小学校の沢遊砂地工、白川砂防堰堤、
美瑛川床固工群、美瑛川第２号堰堤改築、
尻無沢川第３号堰堤改築
令和６年度迄の主要な成果：堰堤、床固工、遊砂地の整備　等

【水系砂防】上流域の砂防設備によって流出土砂をコントロールし、下流域の河床変動を極端に変化しないようにするために実施
◆石狩川上流では、層雲峡温泉地区唯一の避難所や温泉街を保全する他、上川町市街に集積する要配慮者利用施設等を保全するため砂防設備の整備を進める。

【火山砂防】最も危険性が高いと見られる十勝岳の噴火による火山泥流への対策として実施
◆十勝岳（美瑛川）では、144名の死者を出した大正15年噴火相当の融雪型火山泥流に対して美瑛町市街地、白金温泉地区を保全するため、火山泥流対策を重点的に実施する。



南富良野町かわまちづくり・幾寅地区MIZBEステーション（札幌開発建設部）

治水事業 1-3-9

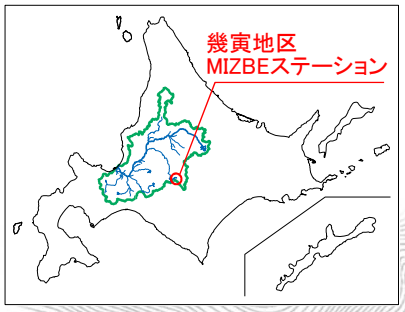
地域重点プロジェクト

◯道北広域観光地域づくりプロジェクト
◯ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト
◯生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりプロジェクト

事業箇所　南富良野町
主要項目　水辺整備（親水護岸、ワンド、アクセス通路、高水敷整正 等）、堤防整備、盛土造成・水防センター 等
令和６年度迄の主要な成果：拠点整備（盛土造成）
水辺整備（詳細設計）

石狩川の支川である空知川では、平成28年8月の洪水により南富良野町幾寅地区で空知川の堤防が決壊し、農地が冠水するほか、市街地が浸水する被害が発生しました。

この洪水被害を解消するため、堤防の整備や河道掘削を行うとともに、災害時の水防活動や災害復旧の拠点として河川防災ステーションの整備を河川整備計画に位置付け推進しています。近年では平時に施設の上面を市町村等の取組により、地域活性化や賑わいの創出が期待される河川防災ステーションをMIZBEステーションとして登録しており、幾寅地区では北海道内では初めて登録された施設となり北海道開発局と南富良野町が連携し施設の整備を推進するとともに、地域の活性化につながる賑わいのある河川空間の創出を目指し「南富良野町かわまちづくり」の取組も推進します。



**森と湖のポテンシャルを活かして
アウトドア観光の拠点に**

空知川幾寅地区の堤防決壊氾濫状況

南富良野町市街地の浸水状況（H28年8月洪水）

整備イメージ

雨竜川ダム再生事業（札幌開発建設部）

治水事業 1-3-10

地域重点プロジェクト

○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　幌加内町
主要項目　既存ダム利水容量を洪水調節容量に振替、雨竜第２ダムの嵩上げ
令和６年度迄の主要な成果：雨竜第２ダムの本体工事着手、工事用道路の整備

雨竜川流域は深川市、妹背牛町、秩父別町、雨竜町、北竜町、沼田町、幌加内町の１市６町で構成され、上流域ではそばの栽培が盛んであり、その品質は高く、全国の１等格付けそばの９割以上の産地が雨竜川流域となっています。また、下流域の平地では水稲の栽培が盛んであり、農業が流域全体の基幹産業となっています。さらには、国道２３３号、国道２７５号などの基幹交通施設が位置するなど、交通の要衝となっています。

雨竜川ダム再生事業は、昭和１８年に完成した発電専用ダムである雨竜第１ダムと雨竜第２ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保するものです。洪水災害から地域社会を守るため雨竜川ダム再生事業を推進します。

雨竜第1ダム

雨竜第2ダム

かさ上げイメージ（雨竜第2ダム）

北海道縦貫自動車道　士別剣淵～名寄　(1/3)

地域重点プロジェクト

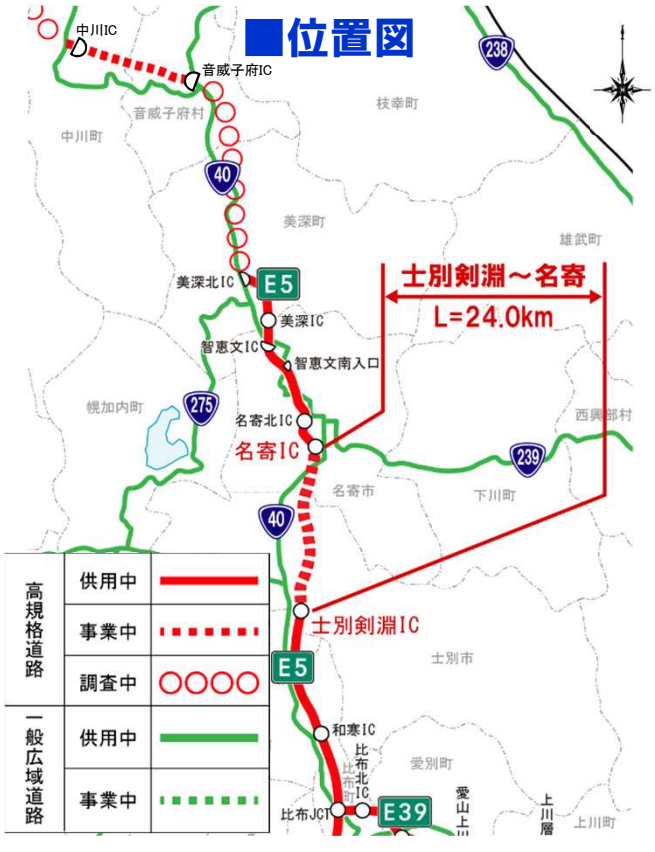
○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりプロジェクト
○北海道型地域構造を支える人流・物流ネットワーク形成プロジェクト

北海道縦貫自動車道士別剣淵～名寄間は、高速ネットワーク拡充による道北圏と道央圏の連絡機能強化を図り、道北地域から高次医療施設のある名寄市や旭川市への広域搬送を支援し、医療格差の解消に貢献します。

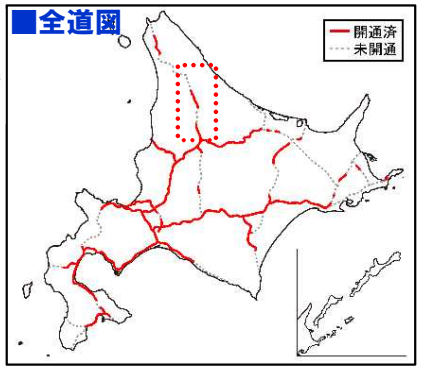
買い物や通院の依存度が高い旭川市への日常移動支援や、農産品の流通利便性向上、道北地域における周遊観光支援により、地域産業活性化が期待されます。

事業箇所　士別市、名寄市
主要項目　事業延長L=24.0km　改良、舗装、中士別大橋ほか
令和６年度迄進捗率　約76%

■位置図



■全道図

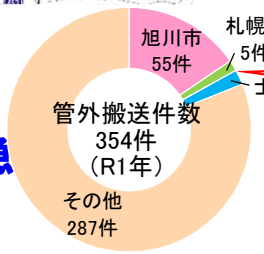


■事業概要図

■当該路線を利用する管外救急搬送状況

出典：稚内地区消防事務組合、南宗谷消防組合、上川北部消防事務組合、北留萌消防組合の各消防本部ヒアリング

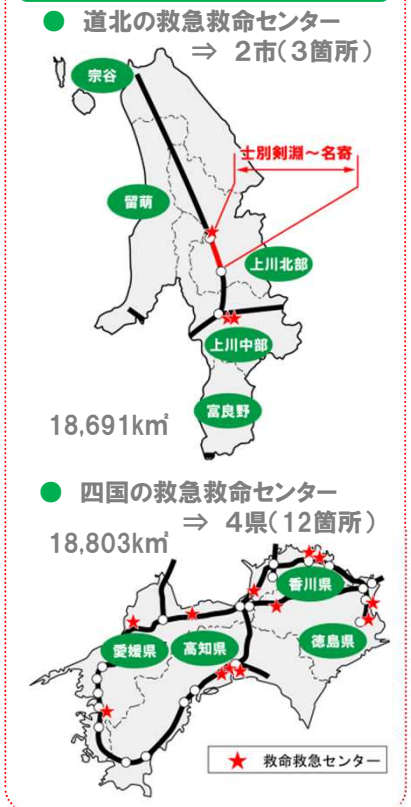
■上川北部・宗谷管内の管外救急搬送先内訳



札幌・旭川方面67件

出典：稚内地区消防事務組合、南宗谷消防組合、上川北部消防事務組合、北留萌消防組合の各消防本部ヒアリング（R1）

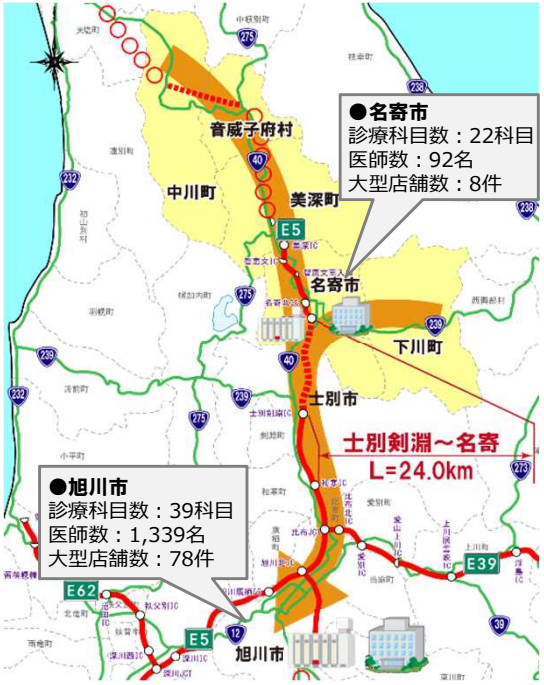
道北と四国4県との面積比較



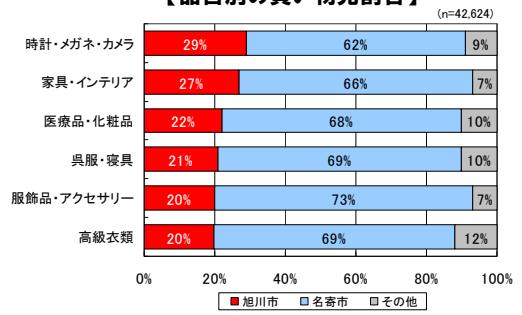
北海道縦貫自動車道　士別剣淵～名寄　(2/3)

■日常活動圏中心都市への利便性向上

日常生活における旭川市への依存状況

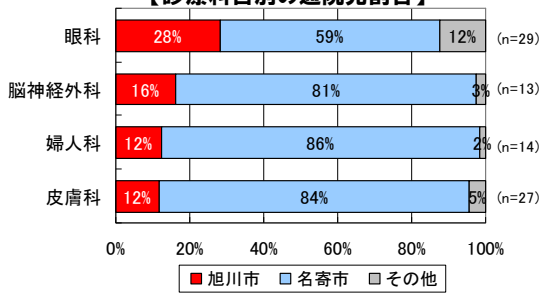


【品目別の買い物先割合】



※H21北海道広域商圏動向調査
※対象市町村：名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町

【診療科目別の通院先割合】



※旭川開発建設部調べ
※対象市町村：名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町

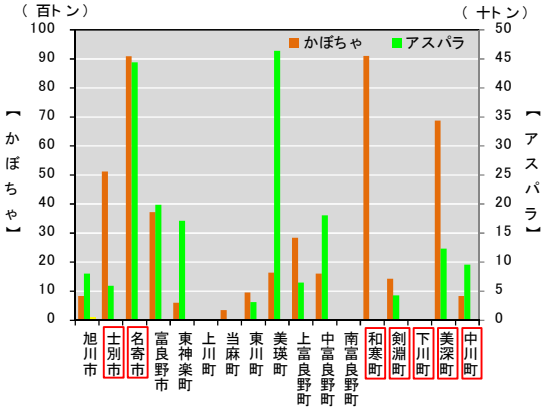
※大型小売店舗総覧(2020版)
※北海道保健統計年報(H30)
※北海道救急医療・広域災害情報システム(H30.)

■農産品の流通利便性向上

アスパラ、かぼちゃの出荷ルート

資料：JA道北なよろヒアリング

アスパラ、かぼちゃの収穫量



資料：H25農林水産統計（北海道農政事務所）

名寄市～苫小牧港への所要時間

名寄市―苫小牧港間所要時間

【現状】
時間（夏期）：205分
（冬期）：221分
【士別剣淵～名寄整備後】
時間（夏期）：193分（12分短縮）
（冬期）：206分（15分短縮）

算出根拠：H27調査

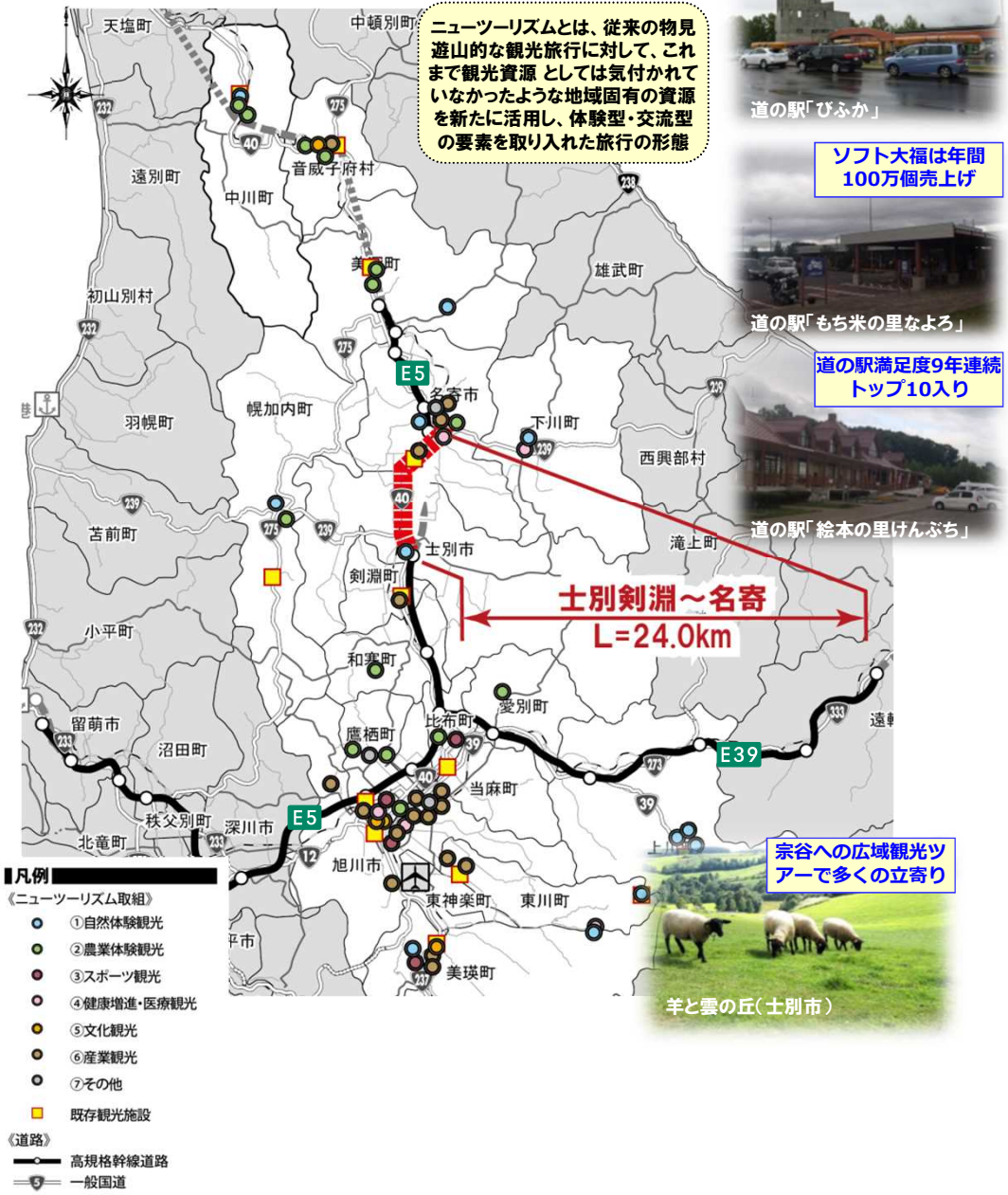
▼大型ショッピングセンター（旭川市内）

▼旭川赤十字病院

北海道縦貫自動車道　士別剣淵～名寄　(3/3)

■道北周遊観光ニーズへの支援

道北地域のニューツーリズム取組状況



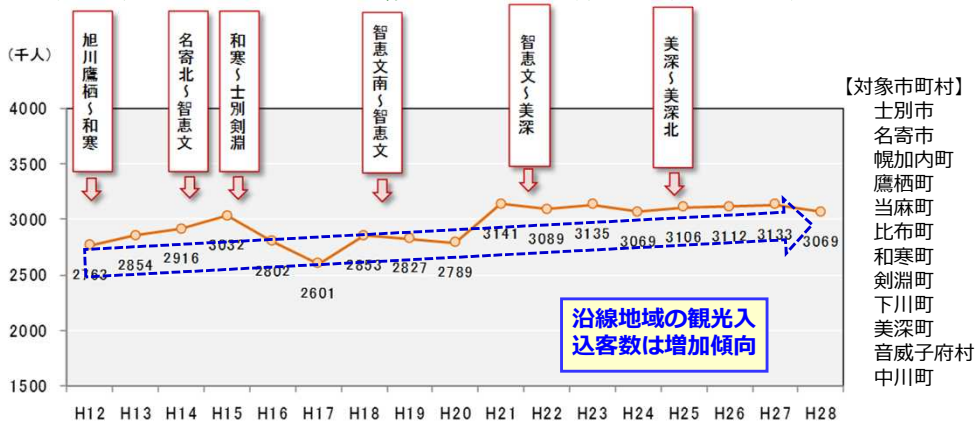
外国人観光客にカヌー観光が人気

ソフト大福は年間100万個売上げ

道の駅満足度9年連続トップ10入り

宗谷への広域観光ツアーで多くの立寄り

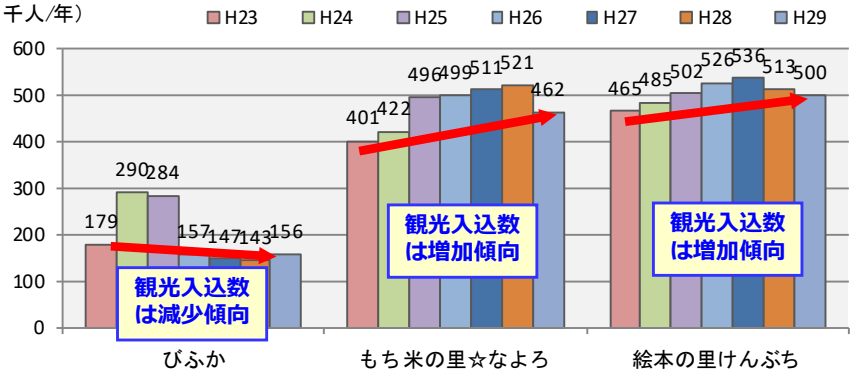
縦貫道及び国道40号周辺地域の観光入込客数推移（上川北部）



【対象市町村】
士別市
名寄市
幌加内町
鷹栖町
当麻町
比布町
和寒町
剣淵町
下川町
美深町
音威子府村
中川町

資料：北海道観光入込客数調査報告書（北海道）

【道の駅の観光入り込み推移】



資料：旭川開発建設部調べ

事業者の声

- 上川北部は、自然体験観光の目的地としてニーズは高く、首都圏旅行代理店からの地域資源活用の問合せも増えています。【観光バス事業者】

外国人観光客の声

- 天塩川周辺へは、カヌーやトレッキングができる箇所があり、移動時間の短縮により滞在時間が増え、より奥地までのトレッキングや長い距離のカヌーが可能となります【在札幌外国人】

一般国道40号　音威子府バイパス（音中道路）(1/3)

道路事業 1-3-14

地域重点プロジェクト

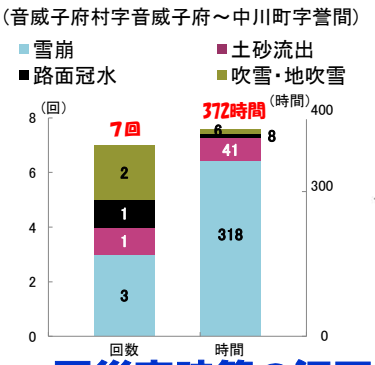
○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト
○北海道型地域構造を支える人流・物流ネットワーク形成プロジェクト

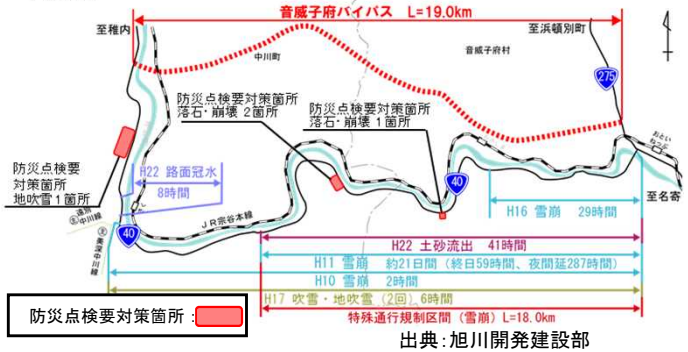
事業箇所　音威子府村、中川町
主要項目　事業延長L=19.0km
　　改良、舗装、音中トンネルほか
令和６年度迄進捗率　約96%

音威子府バイパスは、雪崩による特殊通行規制区間の解消および現道の交通事故低減により、現道の安全性、定時性が確保されます。
地方センター病院である名寄市立病院までのアクセス時間が向上し、道北圏の救急医療体制が充実するとともに、地域住民の通院の利便性向上が期待されます。
中川町から名寄市への所要時間が短縮され、定住自立圏中心都市への利便性向上が期待されます。

■特殊通行規制区間の規制状況

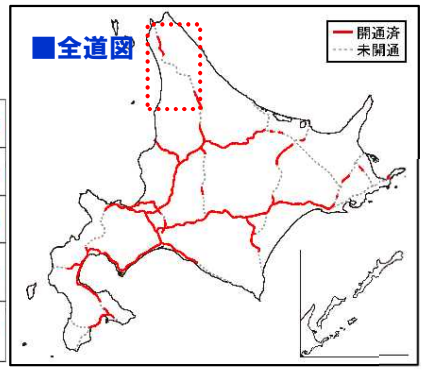
【現道の通行規制の内訳（H5～R2年度）】





出典：旭川開発建設部

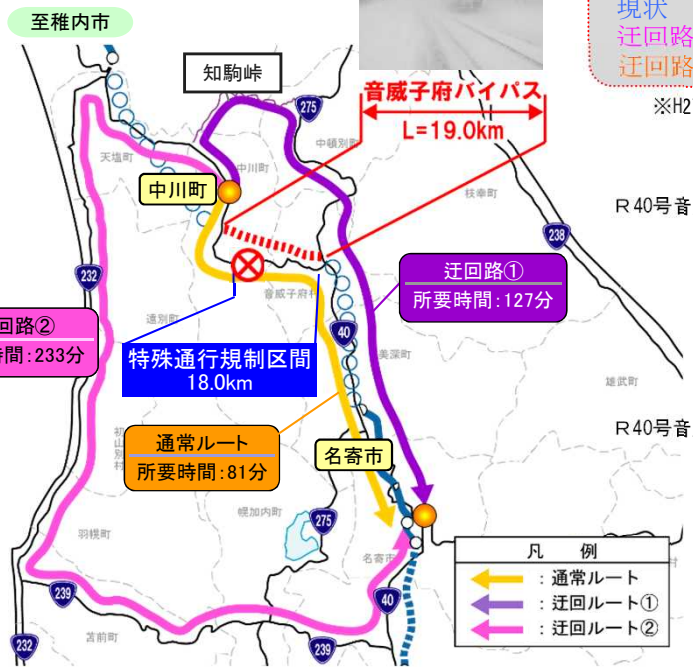
■位置図



■事業概要図

■災害時等の迂回路の現状と整備後（中川町～名寄市）

視程障害発生の状況



【中川町～名寄市間の所要時間と時間短縮】

	所要時間	短縮時間
現状	81分	－
迂回路①	127分	＋ 46分
迂回路②	233分	+152分

※H27全国・道路街路交通情勢調査

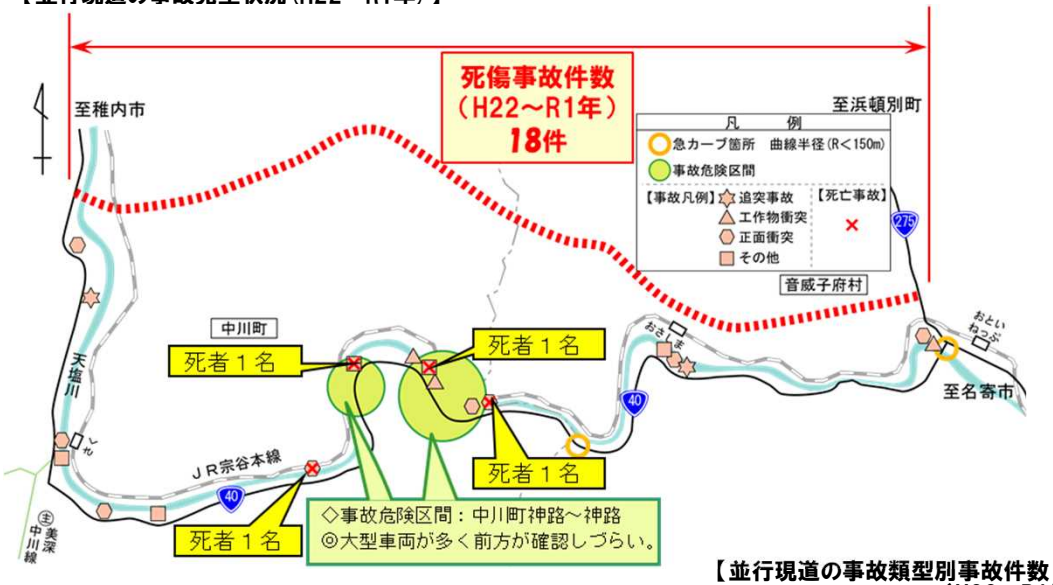
【雪崩による通行止めの状況】
R40号音威子府村：H11年4月　通行止　21日間

【豪雨災害時の状況】
R40号音威子府村：H22年8月　通行止　41時間

資料・写真：旭川開発建設部

一般国道40号　音威子府バイパス（音中道路）(2/3)

【並行現道の事故発生状況（H22～R1年）】



【交通事故状況】（令和元年9月）

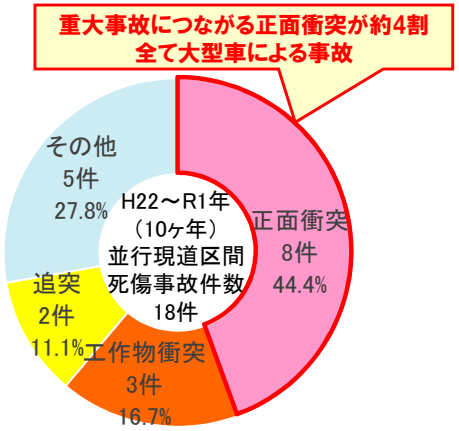
【交通事故状況】（平成30年12月）

写真：旭川開発建設部

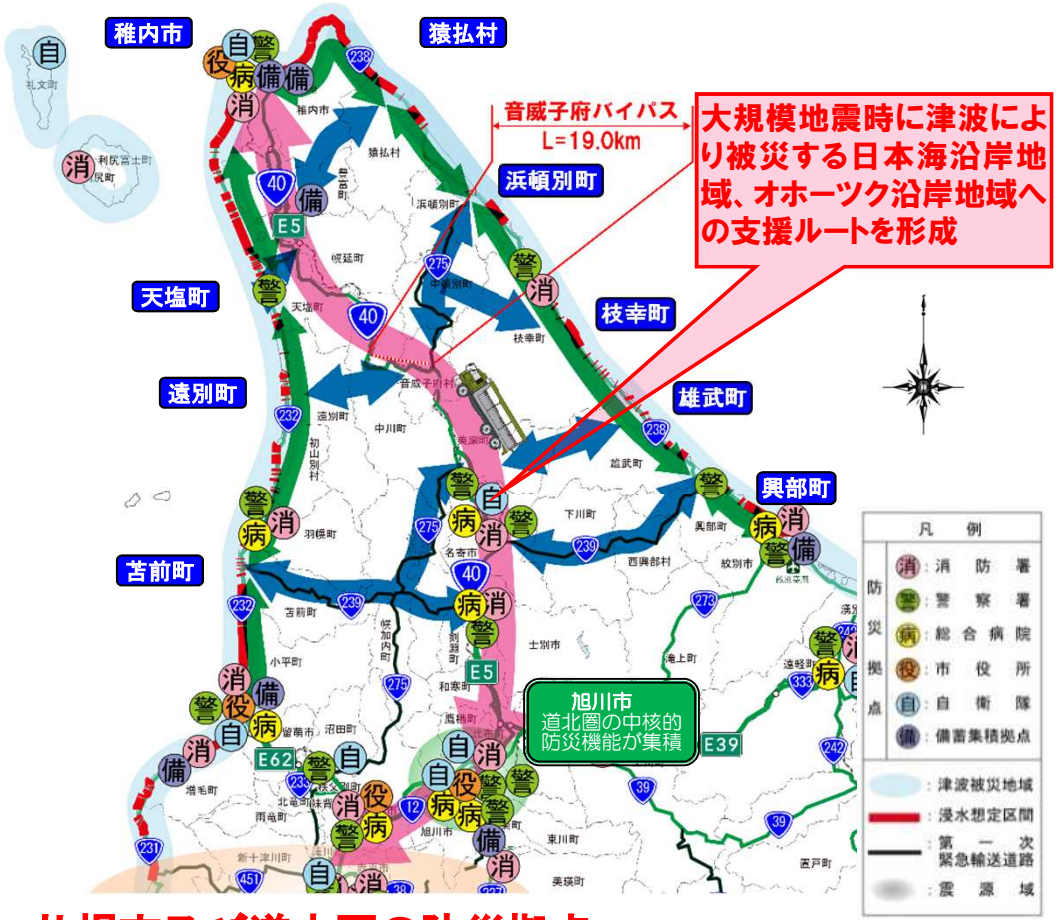
輸送事業者の声

- 並行現道区間は、急カーブが多く、前方が確認しづらい上に、冬期は路面凍結により、車両がスリップしやすく、事故の危険性が高い区間です。
- 稚内～旭川間の住民生活に必要な日配品等の確実な配送を確保する上で、事故の危険性の高い区間を回避でき、安全かつ安定した走行が可能となる音威子府バイパスの早期開通に期待しています。

【並行現道の事故類型別事故件数（H22～R1）】



■緊急輸送ルートの強化



札幌市及び道央圏の防災拠点

【北海道北西沖地震、紋別沖地震の概要】

項目	北海道北西沖	紋別沖
地震の規模	M7.8 程度）	M7.56
道路の被災規模	国道232号 稚内―留萌間 路線延長の 17%、 31km が浸水	国道238号 稚内―紋別間 路線延長の 45%、 110km が浸水

凡 例
- 札幌市、旭川市と稚内市を結ぶ内陸部骨格道路
- 骨格道路と沿岸部との連絡道路
- 沿岸道路

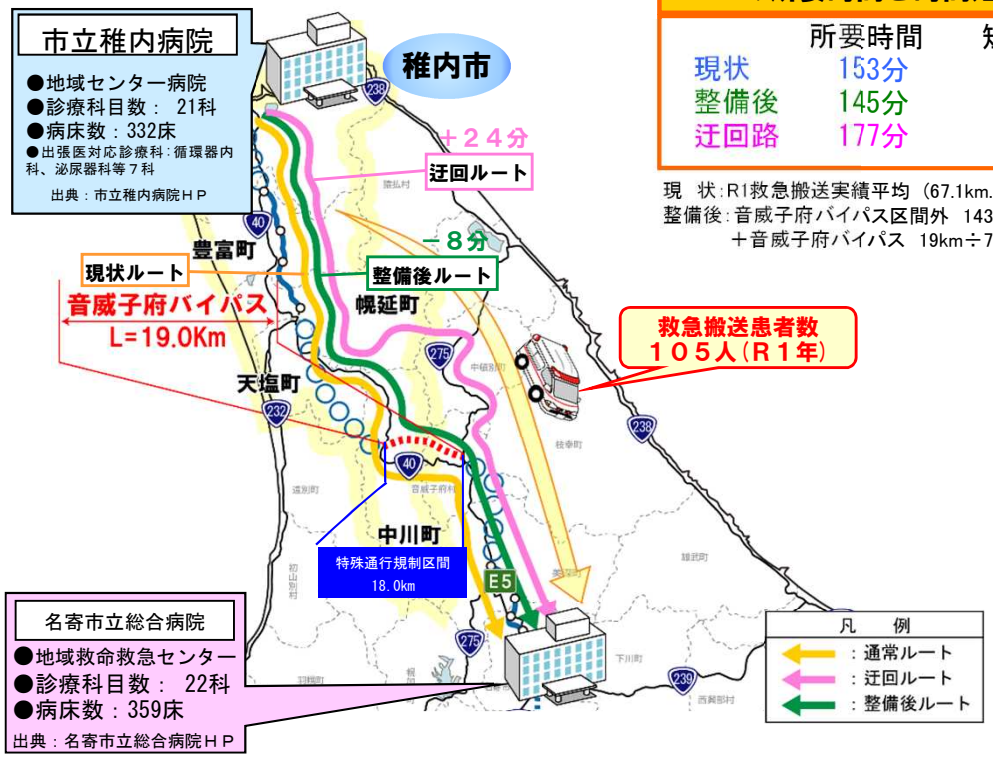
※北西沖・紋別沖地震の津波シミュレーション及び、被害想定調査資料より作成

一般国道40号　音威子府バイパス（音中道路）(3/3)

道路事業 1-3-16

■救急搬送の状況

【国道40号沿線地域からの救急搬送の状況】



出典：稚内地区消防事務組合、上川北部消防事務組合、北留萌消防組合の各消防本部

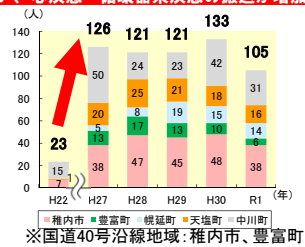
稚内市～名寄市間の所要時間と時間短縮

	所要時間	短縮時間
現状	153分	－
整備後	145分	－８分
迂回路	177分	+24分

現　状：R1救急搬送実績平均（67.1km./h）
整備後：音威子府バイパス区間外　143.6km÷67.1km/h
　　＋音威子府バイパス　19km÷70.0km/h=145分

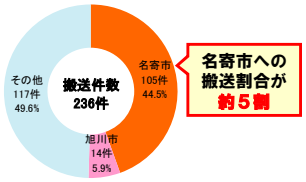
【国道40号沿線地域から名寄市立総合病院への救急搬送患者数推移】

H２３より市立稚内病院循環器内科等出張医体制に伴い、心疾患・循環器系疾患の搬送が増加



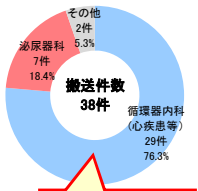
※国道40号沿線地域：稚内市、豊富町、幌延町、天塩町、中川町
※各自市町を除く件数
出典：稚内地区消防事務組合、上川北部消防事務組合、北留萌消防組合の各消防本部

【国道40号沿線地域の救急搬送先内訳（R1年）】



名寄市への搬送割合が約５割

【稚内市から名寄市への疾患種別救急搬送内訳（R1年）】



循環器内科（心疾患等）割合が約８割

■定住自立圏中心都市への利便性向上

【日常生活における名寄市への依存状況】

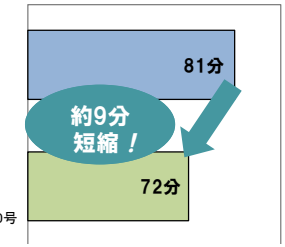
■診療科目数：４科目（医師数１名）　■大型店舗数：ー件

【大型ショッピングセンター】

【中川町から名寄市への所要時間】

現状
国道239号－国道40号－名寄北IC
－美深北IC－国道40号

音威子府バイパス整備後
国道239号－国道40号－名寄北IC－
美深北IC－国道40号－国道275号－
音威子府IC(仮)－中川IC(仮)－国道40号

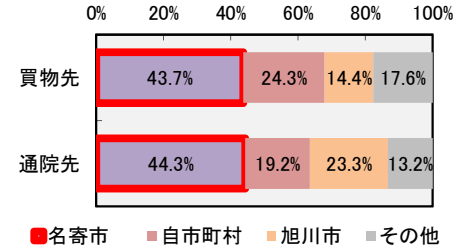


※H27全国・道路街路交通情勢調査

【名寄市立総合病院】
診療科目数：22科
病床数：359床

写真：旭川開発建設部

【中川町の買い物先、通院先割合】



資料：北海道広域商圏動向調査報告書（H21年）

一般国道452号　五稜道路(1/2)

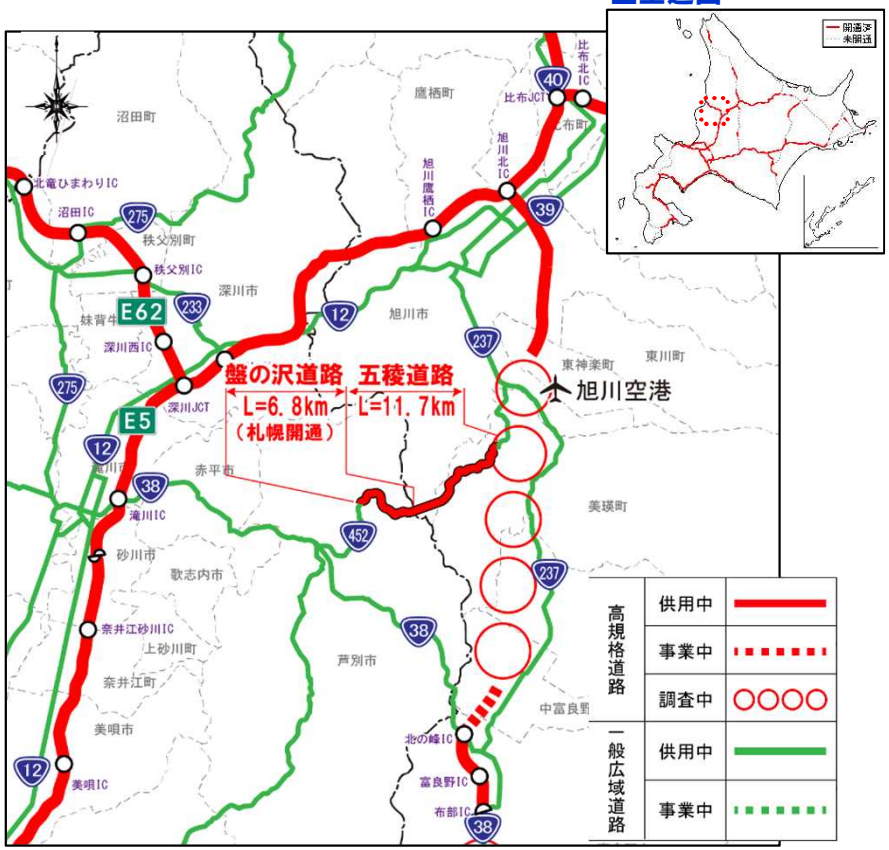
地域重点プロジェクト

○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○北海道型地域構造を支える人流・物流ネットワーク形成プロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

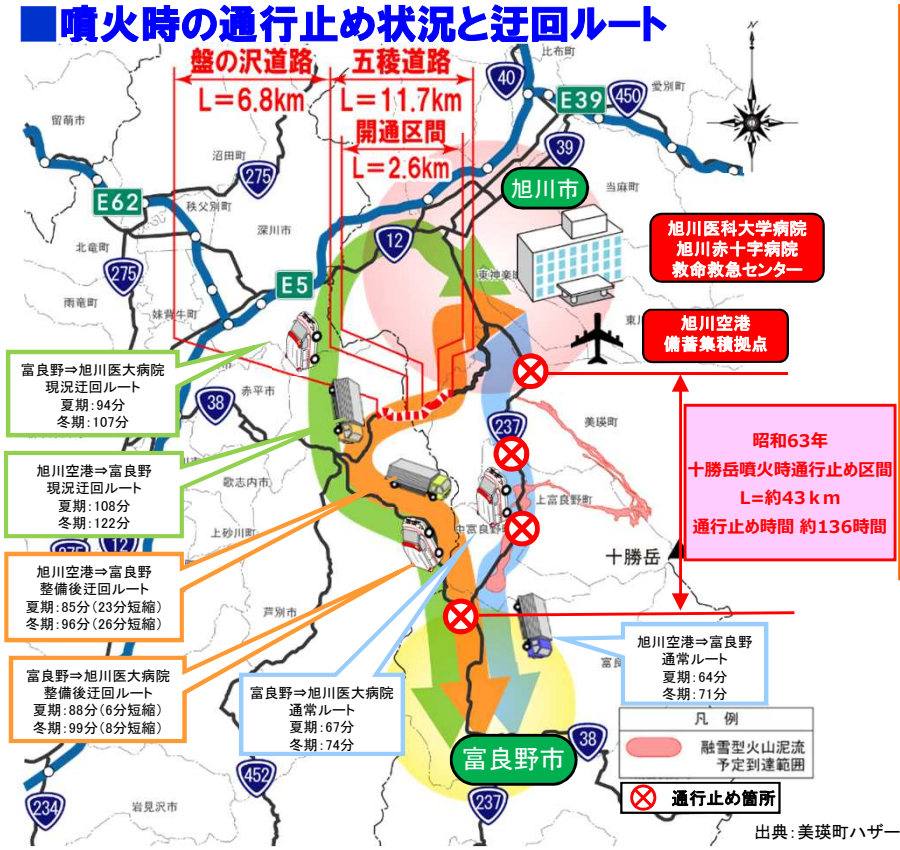
五稜道路により、国道の不通区間が解消され、道央圏と道北圏を結ぶ新たな交通ネットワークの形成が期待され、旭川市の高度医療施設へのアクセス強化や、芦別市と旭川空港間の所要時間短縮が図られ、空港アクセスが向上し、芦別市と美瑛町や富良野市、旭川市の観光施設との連携強化、広域周遊観光ルート形成が強化されます。

事業箇所　美瑛町、旭川市
主要項目　事業延長L=11.7km（うち、L=2.6km供用済）
　　改良、舗装、台ノ下山トンネルほか
令和６年度迄進捗率　約16%

■全道図



■噴火時の通行止め状況と迂回ルート



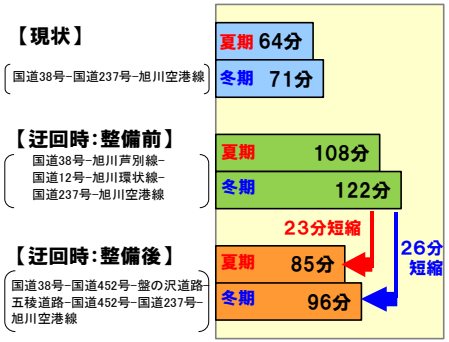
出典：美瑛町ハザードマップ（R2年）、上富良野町ハザードマップ（H28年）

【十勝岳】
昭和６３年１２月１６日から翌年３月５日にかけて火砕流、降下火砕物を主体とした噴火が発生し、国道２３７号等が通行止めとなりました。
噴火活動は３０～４０年周期で、近い将来に大きな噴火が発生する可能性も指摘されています。

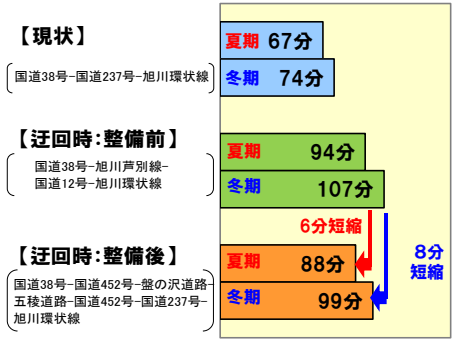
昭和63年の十勝岳の噴火

写真：旭川地方気象台

【富良野市から旭川空港への通常時・迂回時の所要時間】



【富良野市から旭川医科大学病院への通常時・迂回時の所要時間】



※五稜道路の旅行速度は、
　50.0km/h（夏期）、
　45.2km/h（冬期）で算出。
※盤の沢道路の旅行速度は、
　50.0km/h（夏期）、
　43.4km/h（冬期）で算出。
出典：令和3年度全国道路・
　街路交通情勢調査

一般国道452号　五稜道路(2/2)

■旭川空港へのアクセス向上

写真:旭川空港ビル株式会社

出典:北海道内7空港の
優先交渉権者による提案概要

※盤の沢・五稜道路の未開通区間の
旅行速度は、50.0km/hで算出。

出典:旭川開発建設部調べ

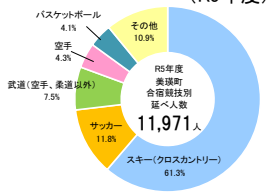
出典:旭川市役所

■交流人口の拡大

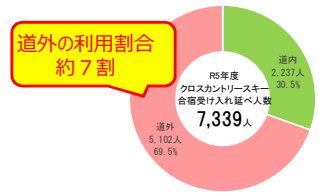
※五稜道路の旅行速度は、50.0km/h(夏期)、
45.2km/h(冬期)で算出。
※盤の沢道路の旅行速度は、50.0km/h(夏期)、
43.4km/h(冬期)で算出。

出典:令和3年度全国道路・街路交通情勢調査
北海道渋滞対策協議会(R4.8)

【美瑛町競技別合宿参加者延数
(R5年度)】



【美瑛町におけるクロスカントリー合宿
参加者の居住地(R5年度)】

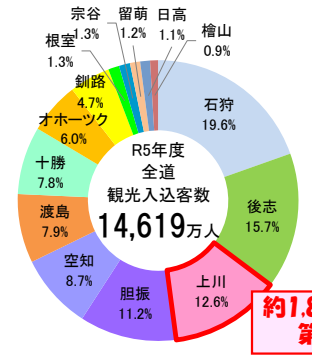


出典:令和5年度上川管内スポーツ合宿実態調査

■観光地への利便性向上

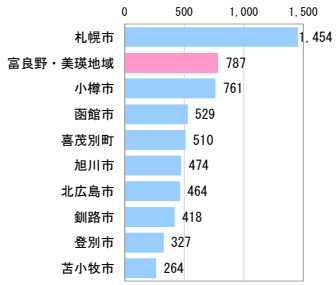
出典:ふらのまっぷ
(一般社団法人　ふらの観光協会)、
北海道芦別市観光ガイドブック
「上をみる」(一般社団法人　芦別 観光協会)
北海道渋滞対策協議会(R4. 8)

北海道の観光入り込み客数(R5年度)



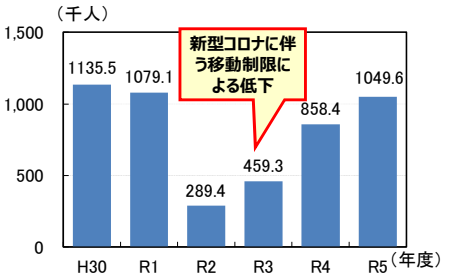
出典:北海道観光入込客数調査

観光入込客上位10位(R5年度)



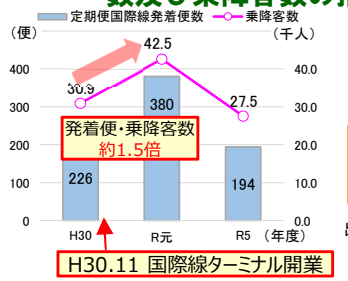
出典:北海道観光入込客数調査
※富良野・美瑛地域:富良野市、美瑛町、上富良野町
中富良野町、南富良野町、占冠村

旭川空港の乗降客数の推移



出典:旭川市

旭川空港の定期便国際線発着便数及び乗降客数の推移



H30.11 国際線ターミナル開業

※コロナの影響で、R2～R4の国際便は０

出典:旭川空港管理事務所

旭川十勝道路（富良野道路・富良野北道路）(1/4)

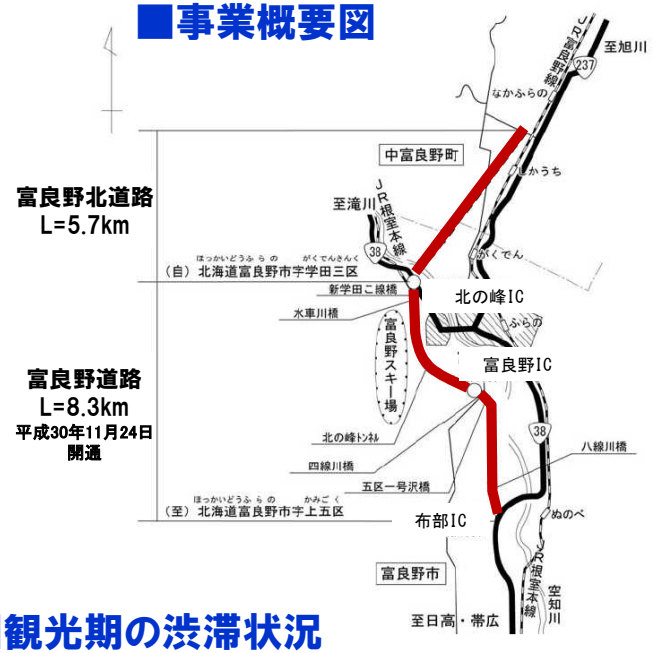
地域重点プロジェクト

○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○ゼロカーボン北海道の実現及び自然共生社会・循環型社会の形成プロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりプロジェクト
○北海道型地域構造を支える人流・物流ネットワーク形成プロジェクト

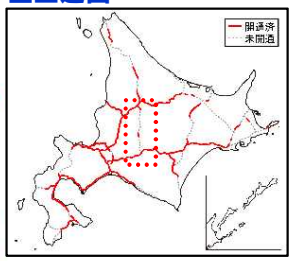
富良野道路・富良野北道路は、北海道縦貫自動車道と北海道横断自動車道と一体となり、道北圏と十勝圏を結び広域ネットワークを形成する高規格道路です。
道路整備により、観光期で集中する交通が分散し、渋滞の緩和が期待、旭川方面への速達性が向上し、広域観光及び救急搬送を支援します。また、広域交通拠点である旭川空港・苫小牧港との連携強化による、農業等の基幹産業の競争力強化が期待できます。

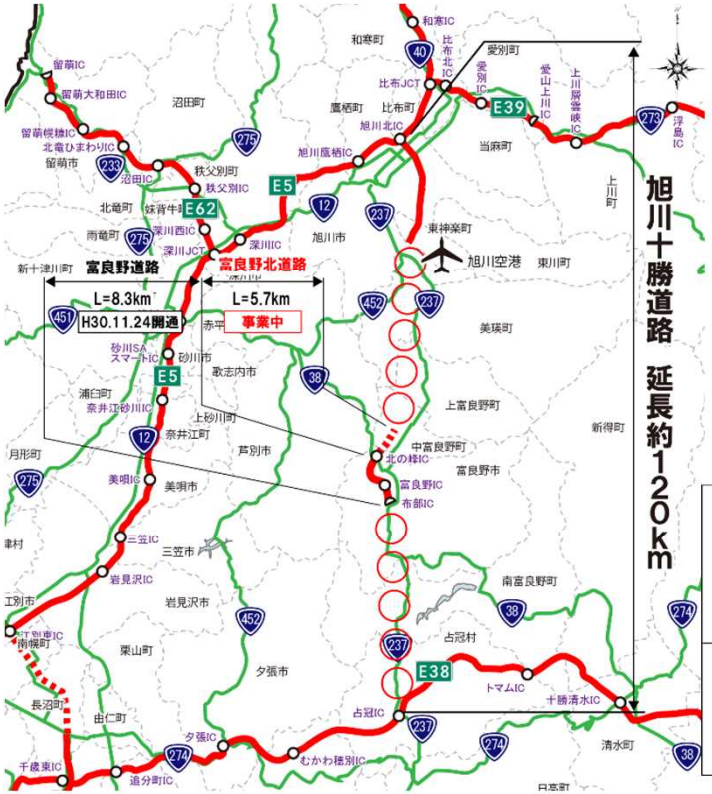
事業箇所　中富良野町、富良野市
主要項目　事業延長L=5.7km　改良、舗装、新富良野大橋ほか
（富良野道路は、H30年度開通）
令和６年度迄進捗率　約86%

■事業概要図

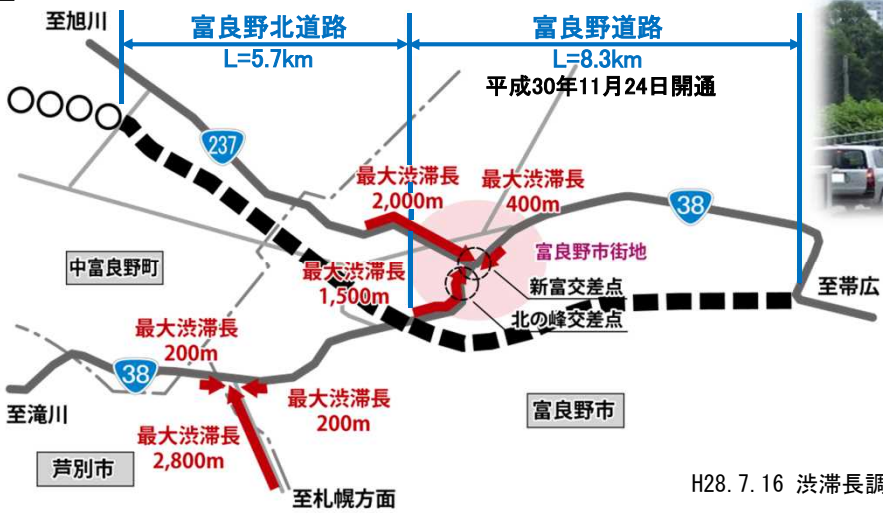


■全道図





■観光期の渋滞状況



H28.7.16 渋滞長調査結果

観光ピーク時の渋滞状況

旭川十勝道路（富良野道路・富良野北道路）(2/4)

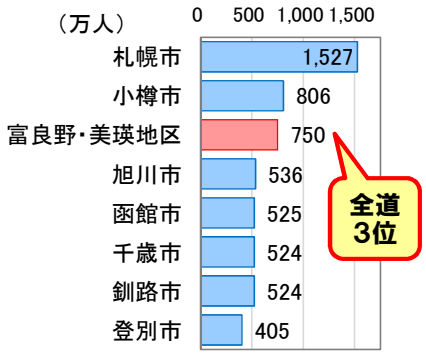
■広域観光ルートの形成

富良野・美瑛地域の観光入込客数（R1年度）

■ 新規開業宿泊施設等（H30以降）

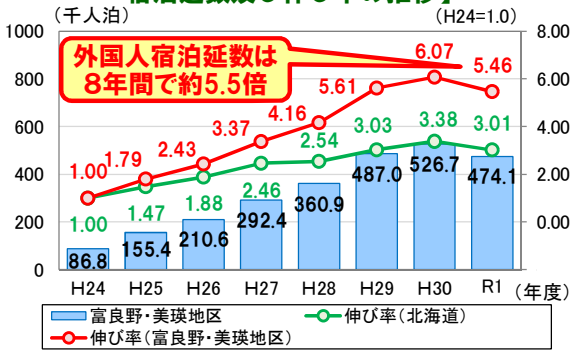
出典：北海道観光入込客数調査
写真：旭川開発建設部

【観光入込客数上位１０位（Ｈ２９年度）】



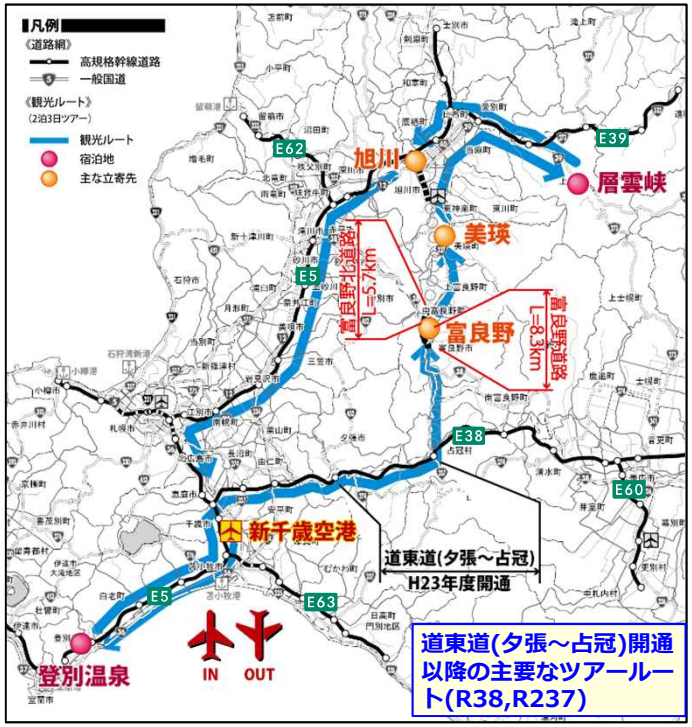
出典：北海道観光入込客数調査

【富良野・美瑛地区の外国人宿泊延数及び伸び率の推移】



出典：北海道観光入込客数調査

道東道（夕張～占冠）開通以降の観光ツアールート（道外・訪日外国人観光客）



資料：H26年度事業者ヒアリング結果より作成

事業者の声

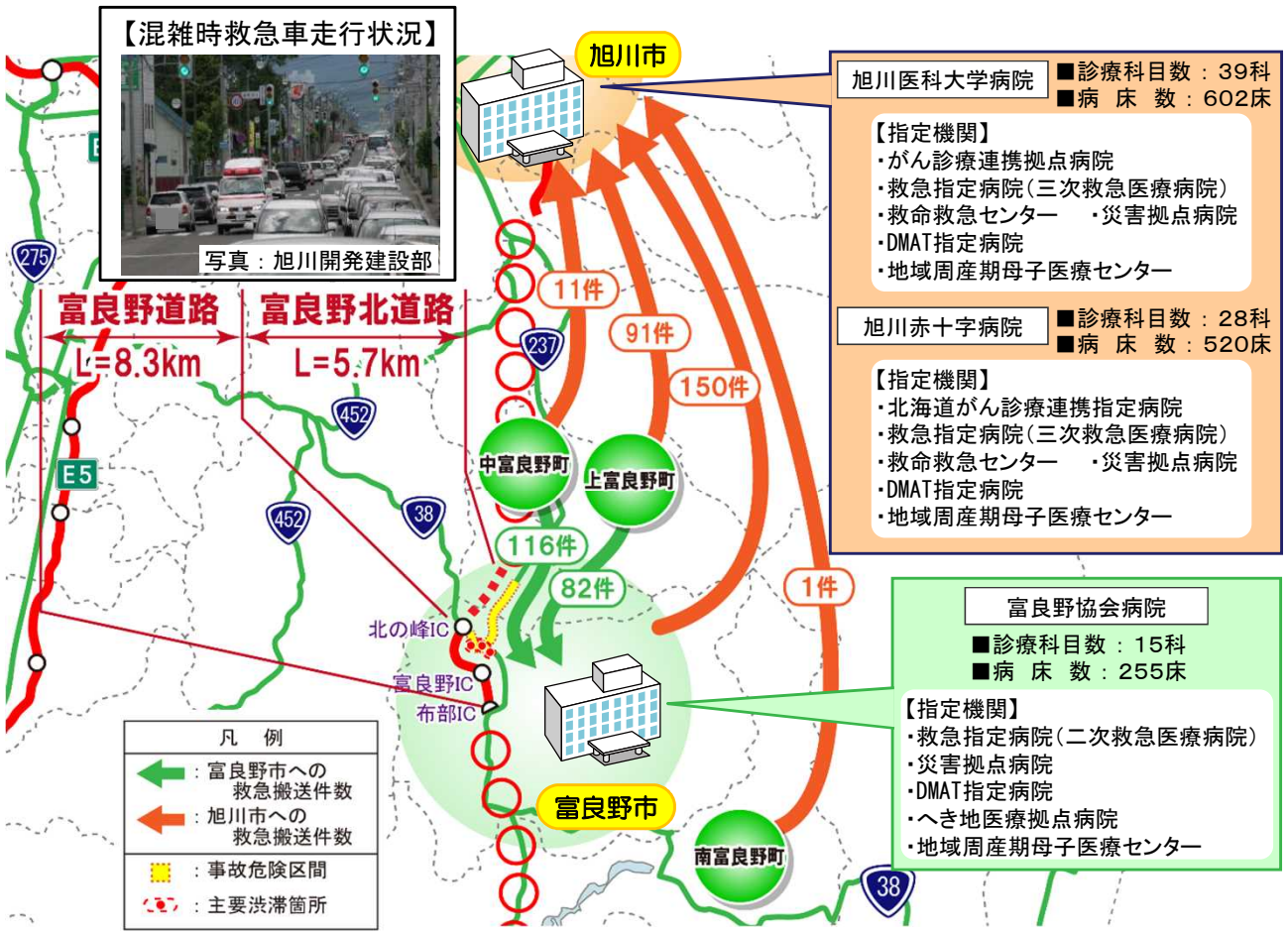
- 富良野・美瑛地域に立寄るツアーは、特にアジアからの観光客の場合、富良野・美瑛地域の人気は高く、多くのツアーで立寄っています（アジア系の外国人のツアーでは、ツアーに欠かせない立寄り先）。
- また、外国人観光客を含めた道外観光客で最も人気のあるツアーは、登別温泉と層雲峡温泉に宿泊する2泊3日のツアーで、その中間に位置する富良野・美瑛地域は、必ず立寄っています。

旭川十勝道路（富良野道路・富良野北道路）(3/4)

道路事業 1-3-21

■旭川市への救急搬送を支援

【当該道路周辺における救急搬送状況（R1）】



旭川医科大学病院
■診療科目数：39科
■病　床　数：602床

【指定機関】
・がん診療連携拠点病院
・救急指定病院（三次救急医療病院）
・救命救急センター　・災害拠点病院
・DMAT指定病院
・地域周産期母子医療センター

旭川赤十字病院
■診療科目数：28科
■病　床　数：520床

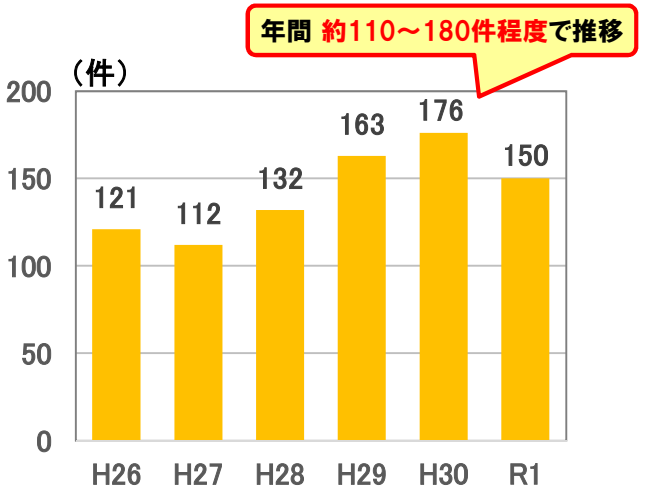
【指定機関】
・北海道がん診療連携指定病院
・救急指定病院（三次救急医療病院）
・救命救急センター　・災害拠点病院
・DMAT指定病院
・地域周産期母子医療センター

富良野協会病院
■診療科目数：15科
■病　床　数：255床

【指定機関】
・救急指定病院（二次救急医療病院）
・災害拠点病院
・DMAT指定病院
・へき地医療拠点病院
・地域周産期母子医療センター

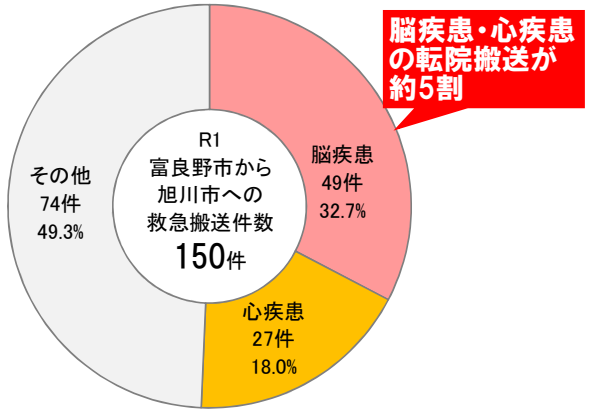
出典：旭川開発建設部、各病院HP、北海道医療計画（H30-H35年度）

【富良野市から旭川市への救急搬送件数の推移】



出典：旭川開発建設部

【富良野市から旭川市への疾患別救急搬送割合（R1）】



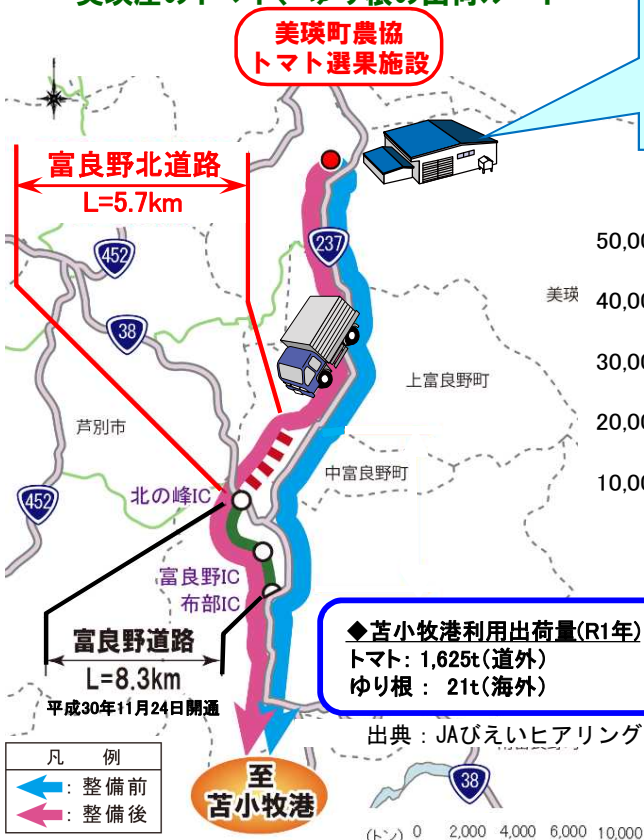
出典：旭川開発建設部

旭川十勝道路（富良野道路・富良野北道路）(4/4)

道路事業 1-3-22

■農産品物流の利便性向上

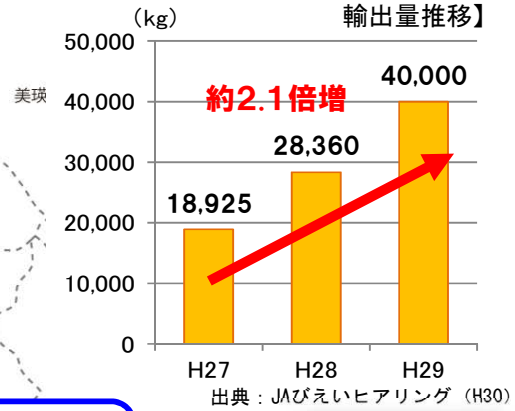
美瑛産のトマト、ゆり根の出荷ルート



トマト：全道2位
出荷時期：5月～10月
約6割を道外に出荷

ゆり根：全道4位
出荷時期：10月～12月
約2割を海外に輸出

【ゆり根のシンガポールへの輸出量推移】

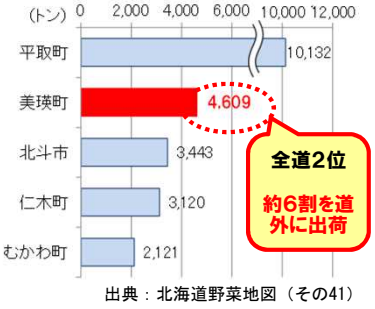


出典：JAびえいヒアリング（H30）

◆苫小牧港利用出荷量(R1年)
トマト：1,625t（道外）
ゆり根：　21t（海外）

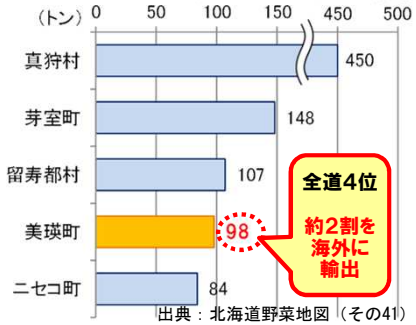
出典：JAびえいヒアリング（R1）

【トマトの全道収穫量ランキング（H30年）】 ⇒



出典：北海道野菜地図（その41）

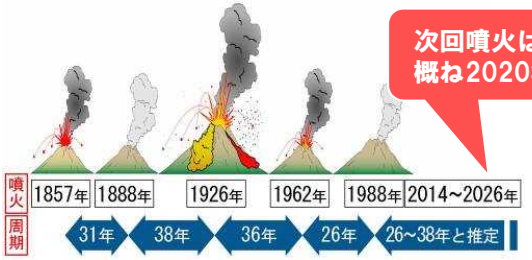
【ゆり根の全道収穫量ランキング（H30年）】



出典：北海道野菜地図（その41）

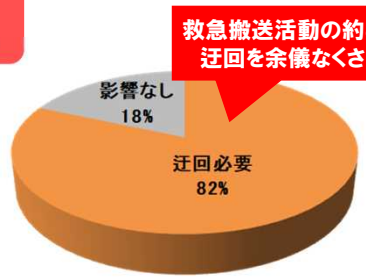
■十勝岳噴火による泥流到達区域を回避

十勝岳の噴火周期



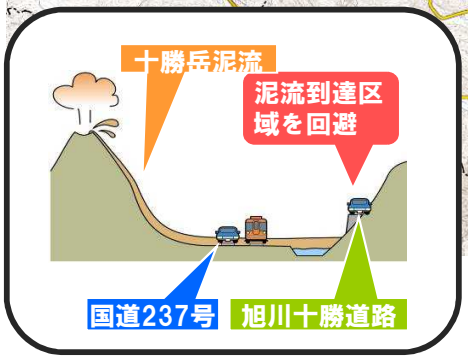
資料：十勝岳直轄火山砂防事業 パンフ（旭川開発建設部）

最大規模相当の噴火発生時の影響度合い【救急搬送】



※H23各消防署データ

泥流到達区域



直轄明渠排水事業　風連多寄地区

農業農村整備事業 1-3-23

地域重点プロジェクト

○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

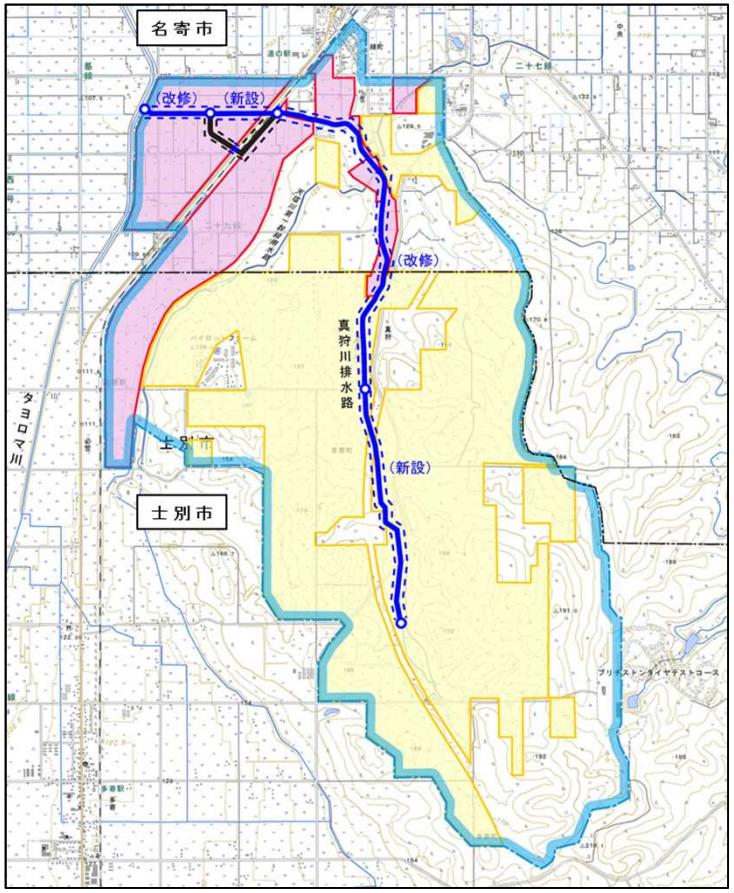
事業箇所　士別市、名寄市
受益面積　650ha
主要項目　排水路(新設・改修)1条L=5.2km
令和６年度迄進捗率　約9.7%

排水路の改修による農地の湛水被害の軽減

本地域は、士別市、名寄市に位置し、水稲、小麦、大豆、てんさい、ばれいしょ、かぼちゃ等を組み合わせた水稲作経営又は畑作経営のほか、飼料作物を栽培し乳用牛を飼養する営農が展開されている。

本地区は近年の降雨条件の変化等に伴う流出量の増加により排水能力が不足し、過去10か年で3回の湛水被害が生じている。

本事業では、排水路の改修等を行う事により、農地の湛水被害解消及び維持管理の軽減を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定に資するものである。



排水路からの溢水の状況

かぼちゃ作付けほ場の湛水状況

かぼちゃ作付けほ場
（R元作付面積で名寄市が北海道1位）

地場産野菜を使用したスープ
（6次産業化の取組）

国営かんがい排水事業　共栄近文二期地区

農業農村整備事業 1-3-24

地域重点プロジェクト

◯上川の農業の持続的な発展プロジェクト
◯道北広域観光地域づくりプロジェクト
◯生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　旭川市、鷹栖町
受益面積　５，５８２ha（田５，５８２ha）
主要項目　頭首工１箇所（改修）　用水路６条　Ｌ＝２０．６km（改修）
　　１条　Ｌ＝０．６km（新設）
令和６年度迄進捗率　約１４．９％

◯用水施設の改修による産地収益力の向上、水管理の合理化による維持管理の軽減

本地域は北海道中央に位置する旭川市及び鷹栖町からなり、道内有数の水田地帯であり、水稲を中心に水田の畑利用による小麦、大豆、そば、トマト、きゅうり等を組み合わせた農業経営を展開している。

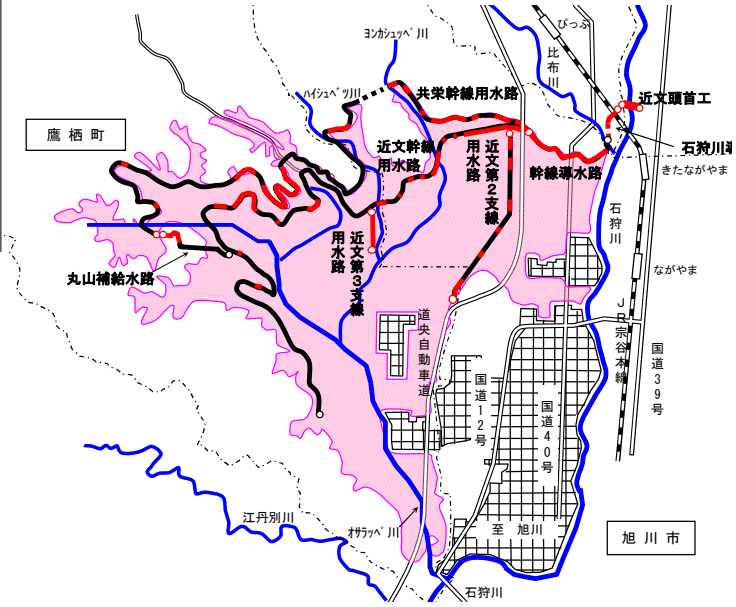
本地区は、事業完了以降、営農状況の変化に伴い水需要が変化しているとともに、複数の取水施設を利用した水利用形態のため用水管理に苦慮している。また、用水施設は経年劣化等により維持管理に多大な費用と労力を要している。さらに、必要な耐震性を有していない近文頭首工の耐震対策が必要となっている。このため、本事業では、水需要の変化や水管理の合理化に対応した用水再編を行うとともに、用水施設の改修と耐震化のための整備を一体的に行うことで、農業用水の安定供給と維持管理の軽減並びに大規模地震に伴う被害の防止又は軽減を図り、農業生産性の向上及び農業経営の安定に資する。

改修整備を待つ近文頭首工

頭首工堰柱の耐震性能不足

用水路の劣化（側壁傾倒）

用水路の劣化（凍害）



「米」食味ランキングで「特A」(H23～)を取得する「ゆめぴりか」「ななつぼし」の作付けが、7割を占める生産地

「野菜」近隣JAによる「旭川青果物出荷組織連合会」を組織し販売体制が確立されており、「旭山動物園のある街」として動物柄を印刷したパーッケージにて流通

国営緊急農地再編整備事業　愛別地区

農業農村整備事業 1-3-25

地域重点プロジェクト

○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　愛別町
受益面積　1,253ha
主要項目　区画整理1,253ha
令和６年度迄進捗率　約70.2%

○土地利用の再編と利用集積対策

本地区は、北海道中央部の上川郡愛別町に位置し、地域の農業は、水稲（うるち米、もち米）を主体としながら、小麦や大豆等の畑作物、きゅうりやアスパラガス等の野菜類のほか、飼料作物として新規需要米（飼料用米、稲発酵粗飼料用稲）等を作付けしている。

本地域では、農家の高齢化や農家戸数の減少が進行し、離農跡地の継承による規模拡大も進んでいるため、効率的な営農体系の構築に向けた機械の共同利用体制の強化による低コスト生産を目指している。しかし、地区内のほ場は、小区画で排水不良も生じているため、機械作業の効率が悪い状況となっている。さらに、地区内の一部で耕作放棄地が発生しており、今後、耕作放棄地が増加するおそれがある。

このため本事業により、農地の土地利用を計画的に再編し、農地の利用集積を進めることにより、生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図り、農業の振興と地域活性化に資することを目的に事業実施を行う。

30a～50aの小区画なほ場が9割を占め、機械作業が非効率

排水不良なほ場では機械がぬかるみ、作業時間が増加

国営事業による基盤整備と機械利用組合の再編により農作業の効率化及び低コスト生産を実現

小麦・大豆の生産拡大

食料自給率の向上に向けて、高品質・安定生産を目指す。

きゅうりやアスパラガスなど高収益作物の生産拡大

節減した労働時間を高収益作物の栽培管理に充当し、農業所得の向上を目指す。

高付加価値化への取組拡大

愛別ブランドの米「愛一杯」

愛別産のもち米や豆を使った加工品の製造・販売を推進

国営緊急農地再編整備事業　大雪東川第一地区・大雪東川第二地区

農業農村整備事業 1-3-26

地域重点プロジェクト

○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

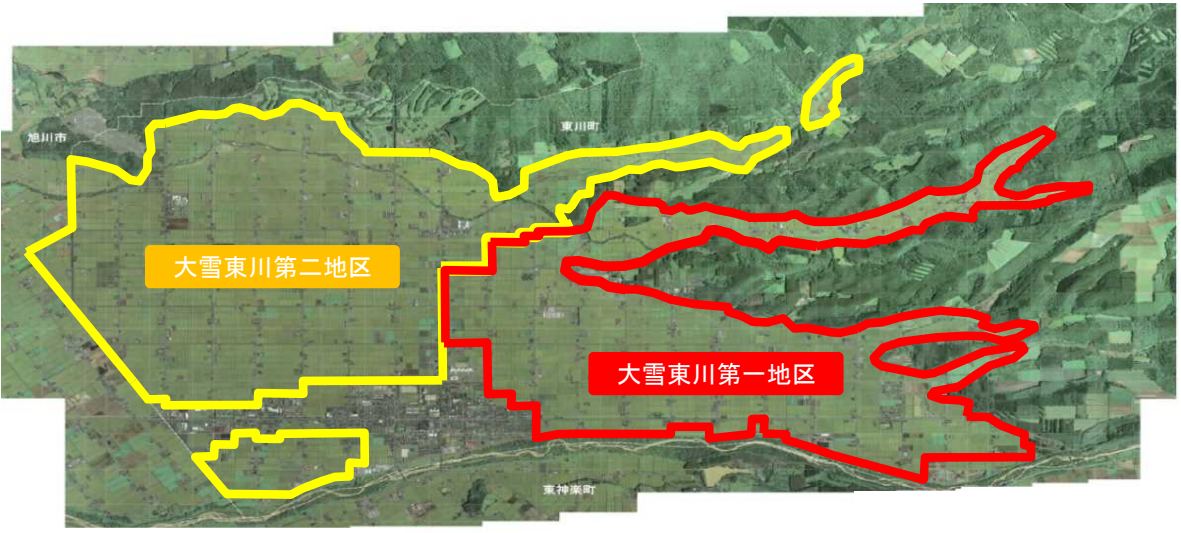
事業箇所　東川町
受益面積　第一地区：1,157ha　第二地区：1,639ha
主要項目　第一地区：区画整理1,157ha　第二地区：区画整理1,639ha
令和６年度迄進捗率 第一地区　約63.1%　第二地区　約32.3%

土地利用の再編と利用集積対策

本地区は、北海道中央部の東川町に位置し、水稲を主体としながら、露地野菜や施設野菜を組込んだ複合経営が展開されており、近年は安心・安全で高品質な農産物の生産に力を入れている。

地区内の農地は、小区画、排水不良等のほ場条件に加え、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来しており、現在の生産基盤のままでは、将来的に担い手への農地流動化が困難となり、地域では農業者の高齢化、後継者の不足等から耕作放棄地が増加するおそれがある。

このため本事業により、農地の土地利用を計画的に再編し、農地の利用集積を進めることにより、生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図り、農業の振興と地域活性化に資することを目的に事業実施を行う。



国営事業による生産基盤の整備により、生産性の向上と水田フル活用を展開

ほ場の大区画化と併せて共同作業を行うことにより、「東川米」の低コスト安定生産が可能

地域住民を雇用し、ひがしかわサラダを収穫

高品質・安定生産による地域ブランドを強化

30～50aの小区画ほ場が9割を占め、機械作業の効率が悪い

排水不良なほ場では機械がぬかるみやすく、作業効率が悪い

ひがしかわサラダ

ブランド野菜

高付加価値化の取組拡大

東川町産の完熟トマト（桃太郎）100%トマトジュース「北の太陽」

国営緊急農地再編整備事業　旭東東神楽地区

地域重点プロジェクト

○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　東神楽町
受益面積　1,535ha
主要項目　区画整理1,535ha
令和６年度迄進捗率　約37.8%

土地利用の再編と利用集積対策

本地区は、北海道中央部の上川郡東神楽町に位置し、地域の農業は、水稲を主体にアスパラガス、スイートコーン等の野菜類のほか、ほうれんそう等の施設野菜など多様な品目を栽培している。

本地域では、農家の高齢化や農家戸数の減少が進行し、離農跡地の継承による規模拡大も進んでいるため、効率的な営農体系の構築に向けた機械の共同利用体制の強化による低コスト生産を目指している。しかし、地区内のほ場は、小区画で排水不良も生じているため、機械作業の効率が悪い状況となっている。さらに、地区内の一部で耕作放棄地が発生しており、今後、耕作放棄地が増加するおそれがある。

このため本事業により、農地の土地利用を計画的に再編し、農地の利用集積を進めることにより、生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図り、農業の振興と地域活性化に資することを目的に事業実施を行う。

地域の農業生産基盤は、ほ場が小区画で排水不良を呈しており、効率的な農作業が行えないことや収益力の向上に向けた農業振興施策へ支障となっています。

小区画ほ場

排水不良ほ場

国営緊急農地再編整備事業による基盤整備

【 整備前 】

【 現況区画 0.3 ha 】

大区画化（イメージ）

【 整備後 】

【 標準区画 2.2 ha 】

東神楽流の農業振興

地域で栽培されたアスパラガスの流通

アスパラガス選別作業

JA〔加工〕

農業者〔栽培〕

アスパラガス収穫作業

企業〔販売〕

アスパラガス商品

☆地域特産のアスパラガス、スイートコーンの一部は、冷凍カット野菜として全国に販売され、主に学校給食で消費されております

国営緊急農地再編整備事業　旭東地区

地域重点プロジェクト

○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト
○生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靭な国土づくりプロジェクト

事業箇所　旭川市、東神楽町
受益面積　1,963ha
主要項目　区画整理1,963ha
令和６年度迄進捗率　約23.5%

土地利用の再編と利用集積対策

本地区は、北海道中央部の旭川市、上川郡東神楽町に位置し、地域の農業は、水稲、小麦のほか、アスパラガス、スイートコーン、小ねぎ、ほうれんそう、ピーマン等の施設野菜を組み合わせた営農を展開している。

本地域では、農家の高齢化や農家戸数の減少が進行し、離農跡地の継承による規模拡大も進んでいるため、効率的な営農体系の構築に向けた機械の共同利用体制の強化による低コスト生産を目指している。しかし、地区内のほ場は、小区画で排水不良も生じているため、機械作業の効率が悪い状況となっている。さらに、地区内の一部で耕作放棄地が発生しており、今後、耕作放棄地が増加するおそれがある。

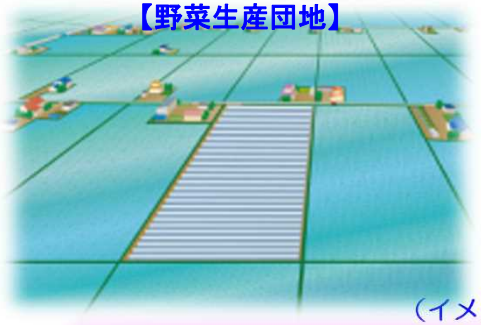
このため本事業により、農地の土地利用を計画的に再編し、農地の利用集積を進めることにより、生産性の向上と耕作放棄地の解消・発生防止による優良農地の確保を図り、農業の振興と地域活性化に資することを目的に事業実施を行う。

地域の農業生産基盤は、ほ場が小区画で排水不良を呈しており、効率的な農作業が行えないことや収益力の向上に向けた農業振興施策へ支障となっています。

排水不良ほ場

石礫過多ほ場

野菜生産団地の形成による高生産性農業を展開



複数の担い手農家が主体となり、大型ハウスでの野菜生産を拡大

（イメージ）

需要の高い高品質な生鮮野菜などの農産物生産

小ねぎ、ｱｽﾊﾟﾗｶﾞｽ、ﾎｳﾚﾝｿｳ等
多様な生鮮野菜を生産

冷凍カット野菜の生産・供給の取り組み

アスパラガス

スイートコーン

学校給食、病院や福祉施設へ供給

国営施設応急対策事業　鳥沼宇文地区

農業農村整備事業 1-3-29

地域重点プロジェクト

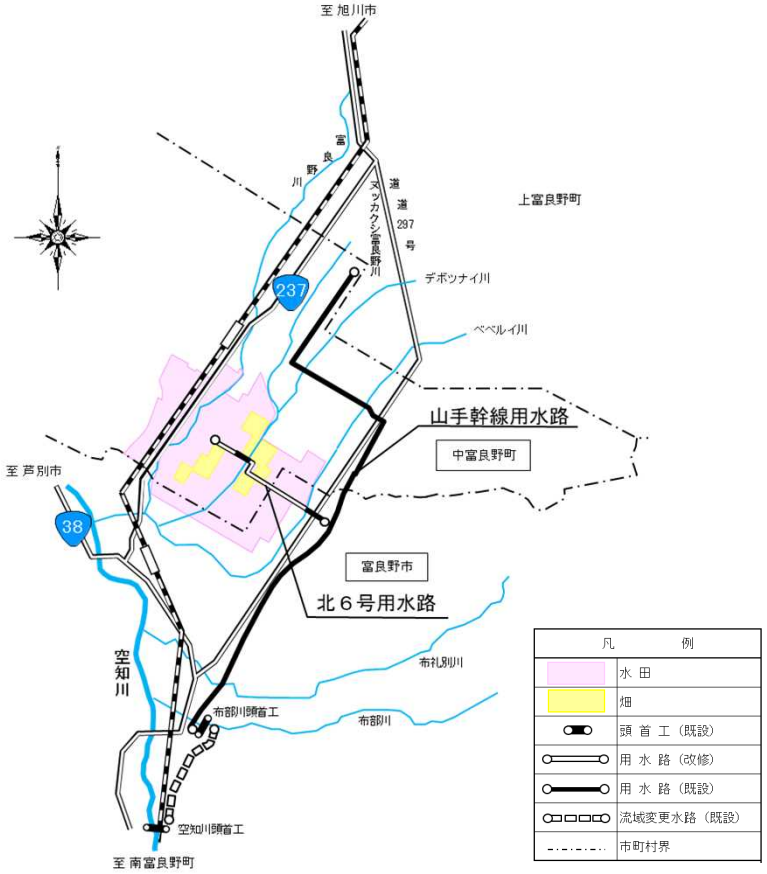
○上川の農業の持続的な発展プロジェクト
○道北広域観光地域づくりプロジェクト

事業箇所　富良野市、中富良野町
受益面積　1,464 ha
主要項目　用水路 1条 L=3.5km
令和６年度迄進捗率　約58.5%

用水路の機能保全による農業用水の安定供給

本地域は、富良野市及び中富良野町に位置し、水稲を中心にたまねぎ、小麦、大豆、メロン等の野菜類を組み合わせ、農業用水を活用した収益性の高い営農が展開されている。

本地区の北６号用水路は、管水路が沈下・漏水する不測の事態が発生し、農業用水の安定供給に支障を来たしているとともに、施設の維持管理に多大な費用と労力を要しているため、本事業において用水路の機能を保全するための整備を行うことにより、農業用水の安定供給及び維持管理の費用と労力の低減を図り、農業生産の維持及び農業経営の安定に資するものである。



基幹的な農業施設での突発事故の発生

漏水事故の発生

沈下による可とう管の亀裂・破断

用水の安定供給、農業生産の維持・農業経営の安定化

整備イメージ（用水路）

たまねぎ

第９期北海道総合開発計画のキックオフ

- 第9期計画の推進に当たっては、官民の垣根を越えた「共創」による地域の課題解決や価値向上の取組に重点。
- 計画初年度（令和6年度）：開発建設部に地域連携課を立ち上げ、組織体制を整備。各地でキックオフイベントを開催し、第9期計画をPRするとともに、道民・各自治体・産学とも連携した地域との「共創」の取組に着手。

計画初年度（令和6年度）の取組ポイント

① 10開発建設部に地域連携課を立ち上げ、共創に向けた体制を構築、活動開始

- 開発計画の推進を主たる目的とした組織を開発建設部レベルに設置したのは初めて。
- 官民共創の取組に当たり、地域の関係者間の触媒として働くことを期待。

② 全道各地でのキックオフイベントの開催等による第9期計画の周知

- 札幌を含め全道11か所で順次開催（全道規模で開催したのは初めて）。
- 第9期計画の理解と浸透、計画推進の機運醸成のみならず、若い世代を含めた地域づくりへの関心惹起を図った。

③ 6圏域毎に地域づくりの方向性を示す「地域づくり推進ビジョン」を策定

令和６年度　広域連携共創の取組

国土交通省

フェーズ：共創の機運醸成、多様なアイディア出し、キックオフ

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

取組概要

STEP 0 関係機関等へ協力依頼（準備期間）

■約150の自治体や多様な関係機関・団体に9期計画の周知活動を実施。あわせて当部の取組への協力を依頼。
■様々な会議等でも同様の周知や協力要請等を話題提供

STEP 1 パネル展示（計画周知・意見徴収）

■地域の**夏祭りのイベントでアイディアを募集**する取組を実施
■管内で開催された地域の夏まつり約24箇所
■9期計画およびWS開催案内のパネル展示を行い、来場者から「地域のめざす姿」「やりたいこと」等の地域づくりの種を徴収
■関係者に一斉に情報をお届けする「**道北地域づくりワークショップ通信**」による情報発信を開始（1月から「道北地域づくり通信」に改名）

【愛別町】
あいべつ夏まつり

【和寒町】
どんとこい！わっさむ夏まつり

STEP 2 ワークショップ（アイディア、提案）

■**道北地域づくりワークショップを開催**
■3会場（名寄士別、旭川、富良野）で3回（総勢約170名のべ約300名が参加）
■STEP１で徴収した「種」を題材に、①SWOT分析を用いた地域の再確認、②広範な地域課題（食、観光、脱炭素、くらし、交通物流、安全安心）をもとに道北の未来に必要なアクションを考える、③アクションを推進するチームを考える　の3ステップで**16個のアクションプラン**を作成

グループワークの様子

会場全体の様子

■**道北地域づくり共創応援企業・団体募集**の取組を開始

STEP 3 パネルディスカッション（発表、キックオフ）

■**道北地域づくりキックオフシンポジウムを開催**
■アートホテル旭川を会場に、約400名（会場308、WEB100）が参加
■地域の盛り上げと**地域共創のアクションプランのキックオフ**を目的としたシンポジウム
■**筑波大学大学院名誉教授石田東生氏**に基調講演いただき、取組の方向性についてご助言
■WS参加者等によるパネルディスカッション（アクションプランのお披露目と未来づくり宣言）

■道北地域づくり推進ビジョンへ反映

令和６年度　広域地域共創の取組

情報発信と共創応援企業・団体の募集

国土交通省

広域連携共創の取組 1-3-32

▼道北地域づくり通信（現在約300名の方が登録）

//
道北地域づくり通信　<第 10 号>
～みんなで創ろう！　HOT&COOL　DOHOKU～
//
※本メールは、これまでに名刺交換させて頂いた方、道北地域づくりワークショップにご参加いただいた方、道北地域づくり共創応援企業・団体のみなさまに BCC 送信しています
※各関係者様に情報展開して頂けますと幸いです

みなさまこんにちは。
道北地域づくり通信事務局の 旭川開発建設部　地域連携課です。

今回は、「シーニックバイウェイ北海道」の『天塩川シーニックバイウェイ』様からイベントの情報提供を頂きましたので、ご案内いたします。
ご興味がございましたら、是非お申し込みくださいませ。

●【天塩川×武四郎セミナー第１弾】
北の大河・天塩川と北海道の名付け親・松浦武四郎を知る！

【日時】 令和7年3月26日(水)　15:30～17:00
【場所】 グランドホテル藤花　2階　大宴会場　(名寄市西5条南4丁目)
【講演】『武四郎日誌からたどる天塩川流域のアイヌ文化』
国立アイヌ民族博物館　研究学芸部資料情報室長　田村 将人 氏
【定員】 会場参加:100名　／　オンライン参加:100名
【申込方法】 お申込フォームから→https://sites.google.com/view/20250326-teshiogawa-seminer
又は FAX(01654－9－6712)からもお申し込みいただけます
【申込締切】 令和7年3月21日(金)　17時まで

※オンラインと併用とします。オンライン申込の方には、申込確認後当日参加用の URL をご連絡いたします。
※セミナー詳細はお申込フォームをご参照ください

それではどうぞよろしくお願いします。

＊＊HOT & COOL DOHOKU！＊＊
道北の未来のために皆様と共に熱く頑張って参ります。
ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

1

――――――――――――――――――――――――――――――――――――MLIT

(送信元)道北地域づくり通信　編集長
■事務局　国土交通省　旭川開発建設部　地域連携課
〒078－8513　旭川市宮前１条３丁目３番 15 号
℡　0166－32－3079(ダイヤルイン)
Email　hkd-as-chiikirenkei@ki.mlit.go.jp

共に北海道の未来を創る　～第9期北海道総合開発計画～
http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/keikaku/u23dsn0000000fqs.html

▼道北地域づくり共創　応援企業・団体の募集の取組

「道北地域づくり共創
応援企業・団体」を募集！！
地域の皆さんと共に創った
「道北地域づくりアクションプラン」
この官民の垣根を越えた「共創」の取組に
支援、応援、協力等、
様々な形で連携いただける
「道北地域づくり共創応援企業・団体」を
募集しています
「道北地域づくり
アクションプラン」の
一覧はこちら→
企業や団体と地域をマッチング！
～情報収集をしながら支援内容をご検討ください～
登録のメリット
企業や団体に
共創の取組の情報発信や
地域の活動とのマッチング等を行います
登録された企業・団体名、
取組のサポートや連携の実績を
旭川開発建設部のホームページで
ご紹介します
申請方法
制度の詳細及び登録要領等は
右記QRコードからご覧いただけます
詳細は
こちら
お問合せ
北海道開発局　旭川開発建設部　地域連携課
☎0166-32-3079　✉hkd-as-chiikirenkei@ki.mlit.go.jp
共に北海道の未来を創る
第9期北海道総合開発計画

令和７年度　広域連携共創の取組　ロードマップ(案)

国土交通省

令和6年度
機運･キックオフ

令和7年度
課題、実施内容の再構築、実施体制の検討、施策の推進

令和8年度～
事業実行

4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月

○多様な関係者との関係づくり

○各イベントパネル展示で「道北未来のためやりたい」アイディアを徴収

○地域づくりワークショップで種を題材に自由アイディアを出し合い、アクションプランをまとめ

○シンポジウムで、アクションプランのお披露目と、共創の取組キックオフ宣言

アクションプラン

＜見直しのポイント＞
●アクションプランの再構築
●先行事例の創出

STEP1：課題・実施内容等の再構築

・R6にWT毎に検討し、取りまとめたアクションプランを、施策分野毎（観光、農業、教育、物流等）に整理し課題、実施内容を再構築

・当部事業と親和性の高い事業を先行事例として抽出

STEP２：実施体制の検討

・施策分野毎に整理した課題、実施内容を「①事業連携共創（既存の事業、施策、プロジェクトの活用）」「②インフラツーリズム」「③その他のプロジェクト」に分類

・①②は先行事例の創出に向けた取り組みを実施

・③は地域活動団体等の動向把握、取り組み支援等を検討

・②③における応援企業の支援内容を具体的に検討

STEP３：施策の推進

・上川地域共創推進チーム（仮称）を設置し、進捗状況や課題の共有、情報共有・発信等を実施）

STEP0：主要な関係機関や団体へ進め方の説明
その後【道北地域づくり通信】にて民間企業含め関係者に検討をご案内

・旭川開建では、必要に応じて、場の設定（打合せ、勉強会、WS等）や、議論や検討の支援を行います。
・開発局が直接支援できる施策等については、検討の段階から参加し支援しますし、直接支援が難しいものについては、関係機関や団体との調整や仲介を行います！

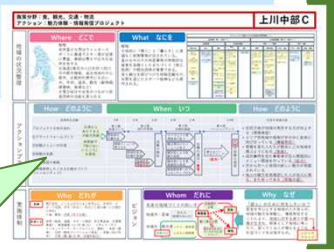
施策の推進（継続）、新たな課題への対応

ビジョンに反映

地域づくり連携会議

地域みんなで考えた未来のために「やるべきこと」のアイディア。誰がどのようにもまだアイディアレベル。

【R7年度の進め方】
課題、実施内容の分類・再構築
※既存プロジェクトでの取り込みも含む



応援企業募集の取組

アクションプランの応援団形成